

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科等連係課程実施基本組織の設置(研究科の設置)							
フリガナ設置者	コクリツカクイフクホジシヨウ エヒメイバク 国立大学法人 愛媛大学							
フリガナ大学の名称	エヒメイバクイフクホジシヨウ 愛媛大学大学院(Graduate School of Ehime University)							
大学本部の位置	愛媛県松山市道後樋又10番13号							
大学の目的	愛媛大学は、学術の一中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的	愛媛県を含む四国地域は、現在、少子高齢化が全国で最も進む地域の一つであると同時に、頻発化する豪雨や南海トラフ地震の自然災害リスクに曝されている。このようなVUCA(変動性(Volatility)、不確実性(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、曖昧性(Ambiguity))の時代に、大学のもつ資源を結集し、大規模災害を念頭においた防災・減災・事前復興と少子高齢化時代における地域の持続的発展(地域のレジリエンス向上)に貢献できる人材育成を行うことを目的とする。 <small>※「地域のレジリエンス向上」とは、自然災害や少子高齢化等の急激な社会情勢の変化に対し、それを吸収しつつ、限界線を越えない範囲で、多様な集団間の相互作用により地域社会を存続させる力の向上をいう。</small>							
新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
研究科等連係課程実施基本組織 地域レジリエンス学環 [Interfaculty Graduate School of Regional Resilience]	2	6	-	12	修士(学術) 【Master of Philosophy】	令和5年4月 第1年次	愛媛県松山市文京町3番	学位の分野： 工学関係、理学関係、農学関係、経済学関係、文学関係 14条特例の実施
連係協力研究科(I) 人文社会科学研究科 [Graduate School of Humanities and Social Sciences]							愛媛県松山市文京町3番	
法文学専攻 [Division of Law and Letters]	2	12	-	24	修士(法学) 【Master of Laws】 修士(人文学) 【Master of Humanities】	令和2年4月 第1年次		学位の分野： 法学関係、文学関係
法文学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数		1		2				
産業システム創成専攻 [Division of Industrial Systems Management and Innovation]	2	8	-	16	修士(経済学) 【Master of Economics】 修士(学術) 【Master of Philosophy】	令和2年4月 第1年次		学位の分野： 経済学関係
産業システム創成専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数		1		2				

新設学部等の概要	連係協力研究科(Ⅱ) 教育学研究科 [Graduate School of Education]						愛媛県松山市文京町 3番	
	心理発達臨床専攻 [Division of Life Span Development and Clinical Psychology]	2	10	—	20	修士 (臨床心理学) 【Master of Clinical Psychology】	令和2年4月 第1年次	学位の分野： 教育学・保育学 関係、文学関係
	教育実践高度化専攻 [Division of Advanced Professional Development in School Education]	2	40	—	80	教職修士 (専門職) 【Master of Education】	令和2年4月 第1年次	学位の分野： 教員養成関係
	連係協力研究科(Ⅲ) 医学系研究科 [Graduate School of Medicine]						愛媛県東温市志津川 454	
	医学専攻 [Program for Medical Science]	4	30	—	120	博士(医学) 【Doctor of Medicine】	平成18年4月 第1年次	学位の分野： 医学関係
	看護学専攻博士前期課程 [Program for Nursing Sciences Master's Course]	2	12	—	24	修士(看護学) 【Master of Nursing Science】	平成10年4月 第1年次	学位の分野： 保健衛生学関係 (看護学関係)
看護学専攻博士後期課程 [Program for Nursing Sciences Doctoral Course]	3	2	—	6	博士(看護学) 【Doctor of Nursing Science】	令和2年4月 第1年次	学位の分野： 保健衛生学関係 (看護学関係)	
連係協力研究科(Ⅳ) 理工学研究科 [Graduate School of Science and Engineering]						愛媛県松山市文京町 3番		

理工学専攻博士前期課程 [Division of Science and Engineering Master's Course]	2	250	—	500	修士（理学） 【Master of Science】、 修士（工学） 【Master of Engineering】、 修士（数理情報学） 【Master of Science in Mathematics and Computer Science】	令和5年4月 第1年次	学位の分野： 理学関係、工学関係
理工学専攻博士前期課程から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数		2		4			
理工学専攻博士後期課程 [Division of Science and Engineering Doctoral Course]	3	23	—	69	博士（理学） 【Doctor of Science】、 博士（工学） 【Doctor of Engineering】、 博士（数理情報学） 【Doctor of Philosophy in Mathematics and Computer Science】	令和5年4月 第1年次	学位の分野： 理学関係、工学関係
連係協力研究科(V) 農学研究科 [Graduate School of Agriculture]						愛媛県松山市樽味3 丁目5番7号	
食料生産学専攻 [Department of Food Production Science]	2	26	—	52	修士（農学） 【Master of Agriculture】	平成28年4月 第1年次	学位の分野： 農学関係
食料生産学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数		1		2			
生命機能学専攻 [Department of Bioscience]	2	23	—	46	修士（農学） 【Master of Agriculture】	平成28年4月 第1年次	学位の分野： 農学関係
生物環境学専攻 [Department of Science and Technology for Biological Resources and Environment]	2	23	—	46	修士（農学） 【Master of Agriculture】	平成28年4月 第1年次	学位の分野： 農学関係
生物環境学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数		1		2			
計		—	—	—			

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更)	理工学研究科						
	生産環境工学専攻 博士前期課程 (廃止) (△62) 令和5年4月学生募集停止 物質生命工学専攻 博士前期課程 (廃止) (△61) 令和5年4月学生募集停止 電子情報工学専攻 博士前期課程 (廃止) (△59) 令和5年4月学生募集停止 数理物質科学専攻 博士前期課程 (廃止) (△40) 令和5年4月学生募集停止 環境機能科学専攻 博士前期課程 (廃止) (△28) 令和5年4月学生募集停止 理工学専攻 博士前期課程 (250) 令和4年4月事前相談 生産環境工学専攻 博士後期課程 (廃止) (△6) 令和5年4月学生募集停止 物質生命工学専攻 博士後期課程 (廃止) (△5) 令和5年4月学生募集停止 電子情報工学専攻 博士後期課程 (廃止) (△4) 令和5年4月学生募集停止 数理物質科学専攻 博士後期課程 (廃止) (△4) 令和5年4月学生募集停止 環境機能科学専攻 博士後期課程 (廃止) (△4) 令和5年4月学生募集停止 理工学専攻 博士後期課程 (23) 令和4年4月事前相談						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	研究科等関係課程実施 基本組織 地域レジリエンス学環	28科目	7科目	3科目	38科目	30単位	

教 員 組 の 設	学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼 任 教 員 等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 設	研究科等連係課程実施基本組織 地域レジリエンス学環	<0> 【14】 (14)	<0> 【12】 (12)	<0> 【1】 (1)	<0> 【1】 (1)	<0> 【28】 (28)	<0> 【0】 (0)	<0> 48 (48)
	連係協力研究科(Ⅰ) 人文社会科学研究科 法文学専攻 産業システム創成専攻							
	連係協力研究科(Ⅱ) 教育学研究科 心理発達臨床専攻 教育実践高度化専攻							
	連係協力研究科(Ⅲ) 医学系研究科 医学専攻 看護学専攻博士前期課程 看護学専攻博士後期課程							
	連係協力研究科(Ⅳ) 理工学研究科 理工学専攻博士前期課程 理工学専攻博士後期課程							
	連係協力研究科(Ⅴ) 農学研究科 食料生産学専攻 生命機能学専攻 生物環境学専攻							
	計	14 (14)	12 (12)	1 (1)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	- (-)
既 設	人文社会科学研究科 法文学専攻(修士課程)	31 【1】 (31)	23 【0】 (23)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	54 【1】 (54)	0 【0】 (0)	6 (6)
	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻(修士課程)	14 【1】 (14)	13 【4】 (13)	2 【1】 (2)	2 【0】 (2)	31 【6】 (31)	0 【0】 (0)	15 (15)
	計	45 (45)	36 (36)	2 (2)	2 (2)	85 (85)	0 (0)	- (-)
	教育学研究科 心理発達臨床専攻(修士課程)	2 【0】 (2)	5 【3】 (5)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	8 【3】 (8)	0 【0】 (0)	12 (12)
	教育学研究科 教育実践高度化専攻(教職大学院)	26 【0】 (26)	10 【0】 (10)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	38 【0】 (38)	0 【0】 (0)	36 (36)
	計	28 (28)	15 (15)	3 (3)	0 (0)	46 (46)	0 (0)	- (-)
	医学系研究科 医学専攻(博士課程)	48 【2】 (48)	54 【0】 (54)	33 【0】 (33)	15 【0】 (15)	150 【2】 (150)	0 【0】 (0)	6 (6)
	医学系研究科 看護学専攻(博士前期課程)	10 【1】 (10)	1 【0】 (1)	3 【0】 (3)	0 【0】 (0)	14 【1】 (14)	0 【0】 (0)	30 (30)
	医学系研究科 看護学専攻(博士後期課程)	10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	8 (8)
	計	68 (68)	56 (56)	37 (37)	15 (15)	176 (176)	0 (0)	- (-)

(注)
<>の中の数は
研究科等連
係課程実施基本
組織のみに
従事する専任教
員。

【】の中の数は
研究科等連
係課程実施基本
組織と連係
協力研究科等に
従事する専
任教員。

概	分	理工学研究科 理工学専攻（博士前期課程）	75 【6】 (75)	72 【3】 (72)	10 【0】 (10)	31 【1】 (31)	188 【10】 (188)	0 【0】 (0)	36 (36)	令和4年4月 事前相談	
		理工学研究科 理工学専攻（博士後期課程）	72 【0】 (72)	62 【0】 (62)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	134 【0】 (134)	0 【0】 (0)	0 (0)		令和4年4月 事前相談
		計	147 (147)	134 (134)	10 (10)	31 (31)	322 (322)	0 (0)	- (-)		
		農学研究科 食料生産学専攻（修士課程）	13 【1】 (13)	16 【1】 (16)	0 【0】 (0)	4 【0】 (4)	33 【2】 (33)	0 【0】 (0)	4 (4)		
		農学研究科 生命機能学専攻（修士課程）	6 【0】 (6)	7 【0】 (7)	1 【0】 (1)	4 【0】 (4)	18 【0】 (18)	0 【0】 (0)	11 (11)		
		農学研究科 生物環境学専攻（修士課程）	15 【2】 (15)	18 【1】 (18)	0 【0】 (0)	3 【0】 (3)	36 【3】 (36)	0 【0】 (0)	6 (6)		
		計	34 (34)	41 (41)	1 (1)	11 (11)	87 (87)	0 (0)	- (-)		
		合計	322 (322)	282 (282)	53 (53)	59 (59)	716 (716)	0 (0)	- (-)		
		要	教員以外の職員 の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
				事 務 職 員	345 (345)	人	431 (428)	人	776 (773)	人	
技 術 職 員	520 (520)				145 (141)		665 (661)				
図 書 館 専 門 職 員	17 (17)				0 (0)		17 (17)				
そ の 他 の 職 員	1 (1)				593 (594)		594 (595)				
計	883 (883)				1,169 (1,163)		2,052 (2,046)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	321,266㎡	0㎡	0㎡	321,266㎡					
	運 動 場 用 地	79,745㎡	0㎡	0㎡	79,745㎡					
	小 計	401,011㎡	0㎡	0㎡	401,011㎡					
	そ の 他	4,257,149㎡	0㎡	0㎡	4,257,149㎡					
合 計	4,658,160㎡	0㎡	0㎡	4,658,160㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		220,539㎡ (220,539㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	220,539㎡ (220,539㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	132室	93室	558室	32室 (補助職員 0人)	9室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		地域レジリエンス学環		28 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	地域レジリエンス学環	1,127,466 [322,765] (1,127,466 [322,765])	23,707 [7,781] (23,707 [7,781])	4,029 [2,415] (4,029 [2,415])	6,978 (6,978)	12,269 (12,269)	1 (1)			
	計	1,127,466 [322,765] (1,127,466 [322,765])	23,707 [7,781] (23,707 [7,781])	4,029 [2,415] (4,029 [2,415])	6,978 (6,978)	12,269 (12,269)	1 (1)			
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		10,615㎡		989	784,833					
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
		10,486㎡		武道場1, 弓道場1, テニスコート22面, 水泳プール4基						
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—		—
		共同研究費等		—	—	—	—	—		—
		図書購入費	—	—	—	—	—	—		—
		設備購入費	—	—	—	—	—	—		—
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		—								

大 学 の 名 称		愛媛大学						
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 員 定 年次 人	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地
法文学部						1.02		
人文社会学科	4	365	3年次 30	1,520	学士 (法学・政策 学, 学術, 人 文学)	1.02	平成28年度	愛媛県松山市文京 町3番
教育学部						1.03		
学校教育教員養成課程	4	160	—	640	学士 (教育学)	1.03	平成11年度	愛媛県松山市文京 町3番
特別支援教育教員養成課程	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	平成20年度	〃
社会共創学部						1.04		
産業マネジメント学科	4	70	—	280	学士 (社会共創学)	1.05	平成28年度	愛媛県松山市文京 町3番
産業イノベーション学科	4	25	—	100	学士 (社会共創学)	1.03	平成28年度	〃
環境デザイン学科	4	35	—	140	学士 (社会共創学)	1.02	平成28年度	〃
地域資源マネジメント学科	4	50	—	200	学士 (社会共創学)	1.07	平成28年度	〃
理学部						1.04		
理学科	4	225	—	900	学士 (理学)	1.04	平成31年度	愛媛県松山市文京 町2番5号
医学部								
医学科	6	110	2年次 5	685	学士 (医学)	1.00	昭和48年度	愛媛県東温市志津 川454
看護学科	4	60	3年次 10	260	学士 (看護学)	1.00	平成6年度	〃
工学部						1.01		
工学科	4	500	3年次 10	2,020	学士 (工学)	1.01	平成31年度	愛媛県松山市文京 町3番

令和2年度より
入学定員増(20
人)
令和2年度より
学生募集停止

既設大学等の状況	農学部						1.05		
	食料生産学科	4	70	3年次 5	290	学士 (農学)	1.06	平成28年度	愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号
	生命機能学科	4	45	3年次 2	184	学士 (農学)	1.04	平成28年度	〃
	生物環境学科	4	55	3年次 3	226	学士 (農学)	1.04	平成28年度	〃
	人文社会科学研究科								
	(修士課程)								
	法文学専攻	2	12	—	24	修士 (法学,人文学)	0.53	令和2年度	愛媛県松山市文京 町3番
	産業システム創成専攻	2	8	—	16	修士 (経済学,学術)	1.00	令和2年度	〃
	教育学研究科								
	(修士課程)								
	心理発達臨床専攻	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	0.95	令和2年度	愛媛県松山市文京 町3番
	(専門職学位課程)								
	教育実践高度化専攻	2	40	—	80	教職修士 (専門職)	1.01	令和2年度	〃
	医学系研究科								
	(博士課程)								
	医学専攻	4	30	—	120	博士 (医学)	1.10	平成18年度	愛媛県東温市志津 川454
	(博士前期課程)								
	看護学専攻	2	12	—	24	修士 (看護学)	0.59	平成10年度	〃
				[2]	[4]				
	(博士後期課程)								
看護学専攻	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.50	令和2年度	〃	
理工学研究科									
(博士前期課程)									
生産環境工学専攻	2	62	—	124	修士 (工学)	1.14	平成18年度	愛媛県松山市文京 町3番	
物質生命工学専攻	2	61	—	122	修士 (工学)	1.14	平成18年度	〃	
電子情報工学専攻	2	59	—	118	修士 (工学)	1.03	平成18年度	〃	
数理物質科学専攻	2	40	—	80	修士 (理学)	0.83	平成18年度	〃	
環境機能科学専攻	2	28	—	56	修士 (理学)	0.92	平成18年度	〃	

医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数

(博士後期課程)												
生産環境工学専攻	3	6	—	18	博士 (工学)	0.88	平成18年度	〃				
物質生命工学専攻	3	5	—	15	博士 (工学)	0.66	平成18年度	〃				
電子情報工学専攻	3	4	—	12	博士 (工学)	0.16	平成18年度	〃				
数理物質科学専攻	3	4	—	12	博士 (理学)	1.75	平成18年度	〃				
環境機能科学専攻	3	4	—	12	博士 (理学)	0.58	平成18年度	〃				
農学研究科												
(修士課程)												
食料生産学専攻	2	26	—	52	修士 (農学)	0.61	平成28年度	愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号				医農融合公衆衛 生学環の内数と する入学定員数
		【1】		【2】								
生命機能学専攻	2	23	—	46	修士 (農学)	1.01	平成28年度	〃				
生物環境学専攻	2	23	—	46	修士 (農学)	0.67	平成28年度	〃				
		【2】		【4】								医農融合公衆衛 生学環の内数と する入学定員数
連合農学研究科												
(博士課程)												
生物資源生産学専攻	3	9	—	27	博士 (農学, 学術)	0.69	昭和60年度	愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号				
生物資源利用学専攻	3	4	—	12	博士 (農学, 学術)	2.08	昭和60年度	〃				
生物環境保全学専攻	3	4	—	12	博士 (農学, 学術)	1.91	昭和60年度	〃				
医農融合公衆衛生学環 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (公衆衛生学)	1.80	令和4年度	愛媛県東温市志津 川454				

附属施設の概要	<p>名称：医学部附属病院</p> <p>目的：医学教育、研究及び診療</p> <p>所在地：愛媛県東温市志津川4-5-4</p> <p>設置年月：昭和51年5月</p> <p>規模等：建物面積 72,346㎡</p>
	<p>名称：教育学部附属幼稚園</p> <p>目的：幼児教育、研究及び教員養成</p> <p>所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：建物面積 1,115㎡</p>
	<p>名称：教育学部附属小学校</p> <p>目的：児童教育、研究及び教員養成</p> <p>所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：建物面積 5,700㎡</p>
	<p>名称：教育学部附属中学校</p> <p>目的：生徒教育、研究及び教員養成</p> <p>所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：建物面積 7,135㎡</p>
	<p>名称：教育学部附属特別支援学校</p> <p>目的：特別支援教育、研究及び教員養成</p> <p>所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号</p> <p>設置年月：昭和47年4月</p> <p>規模等：建物面積 3,202㎡</p>

<p>名称：愛媛大学附属高等学校</p> <p>目的：高等普通教育及び専門教育、研究、教育実習</p> <p>所在地：愛媛県松山市榑味3丁目2番40号</p> <p>設置年月：平成20年4月</p> <p>規模等：建物面積 13,785㎡</p>
<p>名称：農学部附属農場</p> <p>目的：農学の理論を探求しつつ、応用技術を総合化する研究及び学生生徒の実験実習</p> <p>所在地：愛媛県松山市八反地甲498番地</p> <p>設置年月：昭和29年4月</p> <p>規模等：土地面積 187,722㎡</p>
<p>名称：農学部附属演習林</p> <p>目的：森林・林業に関する研究及び学生生徒の実験実習</p> <p>所在地：愛媛県松山市大井野町乙145番2</p> <p>設置年月：昭和32年9月</p> <p>規模等：土地面積 3,838,905㎡</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																	
(地域レジリエンス学環)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基盤科目	SDGs概論	1前	1			○			4					兼4	オムニバス		
	レジリエンス学概論	1前	1			○			7	1					オムニバス		
	データサイエンス概論	1前	1			○			2					兼3	オムニバス		
	デジタルエスノグラフィー実習	1前	1					○		1				兼2	オムニバス		
	サーベイメソッド・プログラム評価法	1前	1			○				1				兼1	オムニバス		
	プロジェクトマネジメント概論	1前	1			○								兼1	オムニバス		
	小計(6科目)	—	6	0	0	—	—	—	9	1				兼11			
実践科目	地域協働インターンシップⅠ	1前	1					○	3						共同・集中		
	地域協働インターンシップⅡ	1後		1				○	3						オムニバス・集中		
	地域レジリエンスPBLⅠ	1前	2				○		7	2		1			共同		
	地域レジリエンスPBLⅡ	1後	2				○		7	2		1			共同		
	地域レジリエンスPBLⅢ	2前	2				○		7	2		1			共同		
小計(5科目)	—	7	1	0	—	—	—	7	2		1						
専門科目	地域理解	人類学特論	1後		1		○								兼1		
		環境情報マネジメント	1後		1		○				1						
		環境経済学	1後		1		○				1						
		自然社会環境論	1後	1			○				1						
		コミュニティ心理学特論	2前		1		○				2				兼2	オムニバス	
		公共ガバナンス論Ⅰ	2前	1			○				1						
		公共ガバナンス論Ⅱ	2前		1		○				1						
		地域マネジメント論Ⅰ	1前	1			○			1							
		地域マネジメント論Ⅱ	1後		1		○										
		海城社会論	1後		1		○								兼1		
	ICT・データ活用	センシングと応用	1前		2		○			1	1		1		兼23	オムニバス	
		ICT/データサイエンス/AI特論	1後	2			○			1							
		知能的食料生産科学特論	1後		2		○			1							
		災害情報学	2前		1		○			2	1				兼5	オムニバス	
		バイオインフォマティクス特論	2前		1		○			1					兼1	オムニバス	
		レジリエンス向上	防災・減災工学	1前	2			○			1					兼2	共同
			危機管理と事前復興・事業継続計画	1後	1			○			1					兼3	オムニバス
リスクコミュニケーション	1後			1		○				1							
災害と福祉法政策	1後			1		○			1								
災害医療と地域包括ケア	2前			1		○			2					兼1	オムニバス		
国際防災戦略と危機対応	2前		1		○			1									
小計(23科目)	—	8	19	0	—	—	—	10	5		1		兼38				
特別研究科目	特別演習Ⅰ	1前	1				○		14	12	1	1					
	特別演習Ⅱ	1後	1				○		14	12	1	1					
	特別演習Ⅲ	2前	1				○		14	12	1	1					
	特別演習Ⅳ	2後	1				○		14	12	1	1					
	小計(4科目)	—	4	0	0	—	—	—	14	12	1	1					
合計(38科目)		—	25	20	0	—	—	—	14	12	1	1		兼48			
学位又は称号		修士(学術)			学位又は学科の分野			工学関係、理学関係、農学関係、経済学関係、文学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
修了要件は所定の単位を30単位以上(基盤科目6単位、実践科目7単位以上、専門科目13単位以上、特別研究科目4単位)を修得することに加え、学位論文または特定の課題についての研究の成果を提出し、審査及び最終試験に合格することとする。							1学年の学期区分				2学期						
							1学期の授業期間				15週						
							1時限の授業時間				90分						

教育課程等の概要															
(人文社会科学部 法文学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科基礎科目	人文社会科学総合（法学）	1後		1		○			5	3					オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同 兼6
	人文社会科学総合（人文学）	1後		1		○			3						
	人文社会科学総合（地域産業社会）	1前		1		○									
	研究フィールド実践	1通		1			○		31	3					
	小計（4科目）	—	0	4	0			—	31	6	0	0	0	0	
専攻科目基礎	法文学研究基礎	1前	1			○			4	1					オムニバス・共同（一部）
	プロフェッショナル・リサーチ&ライティング	1前	1			○			4	2					オムニバス
	小計（2科目）	—	2	0	0			—	7	3	0	0	0	0	—
専門科目（講義系）	基礎法学特殊講義Ⅰ	1前		2		○				1					
	公法特殊講義Ⅰ	1前		2		○			1						
	公法特殊講義Ⅱ	1前		2		○			1						
	公法特殊講義Ⅲ	1前		2		○			1						
	民法特殊講義Ⅰ	1前		2		○			1						
	民法特殊講義Ⅱ	1前		2		○			1						
	民法特殊講義Ⅲ	1前		2		○				1					
	民法特殊講義Ⅳ	1前		2		○			1						
	刑事法特殊講義Ⅰ	1前		2		○				1					
	応用法特殊講義Ⅰ	1前		2		○			1						
	応用法特殊講義Ⅱ	1前		2		○			1						
	国際関係法特殊講義Ⅰ	1前		2		○			1						
	国際関係法特殊講義Ⅱ	1前		2		○			1						
	政治学特殊講義Ⅰ	1前		2		○			1						
	政治学特殊講義Ⅱ	1前		2		○			1						
	政治学特殊講義Ⅲ	1前		2		○			1						
	政治学特殊講義Ⅳ	1前		2		○				1					
	政治学特殊講義Ⅴ	1前		2		○				1					
	政治学特殊講義Ⅵ	1前		2		○				1					
	政治学特殊講義Ⅶ	1前		2		○				1					
小計（20科目）	—	0	40	0			—	12	7	0	0	0	0	—	
人文学コース	人間存在論研究	1前		2		○			1						
	倫理思想史研究	1前		2		○				1					
	美学美術史研究	1前		2		○				1					
	実験心理学研究	1前		2		○				1					
	認知心理学研究	1前		2		○			1						
	社会文化論研究	1前		2		○				1					
	社会人間論研究	1前		2		○				1					
	文化人類学研究	1前		2		○			1						
	地域システム論研究	1前		2		○			1						
	自然環境論研究	1前		2		○				1					
	東アジア考古学研究	1前		2		○			1						
	アジア考古学研究	1前		2		○				1					
	埋蔵文化財論研究	1前		2		○				1					
	日本歴史文化論研究	1前		2		○			1						
	日本歴史交流論研究	1前		2		○				1					
	アジア歴史文化論研究	1前		2		○				1					

専門科目（講義系）	人文学コース	アジア社会史研究	1前	2	○	1								
		ヨーロッパ歴史文化論研究	1前	2	○	1	1							
		言語類型論研究	1前	2	○	1								
		現代日本語論研究	1前	2	○	1								
		英語動態論研究	1前	2	○	1								
		ドイツ語学研究	1前	2	○		1							
		日本古典文学研究	1前	2	○	1								
		日本中世文学研究	1前	2	○	1								
		日本芸能史研究	1前	2	○	1								
		日本近現代文学研究	1前	2	○	1								
		中国思想史研究	1前	2	○	1								
		中国古典文学研究	1前	2	○	1								
		朝鮮言語文化論研究	1前	2	○	1								
		イギリス近現代文学研究	1前	2	○		1							
		英米言語文化論研究	1前	2	○		1							
		英米コミュニケーション論研究	1前	2	○	1								
		アメリカ現代文学論研究	1前	2	○		1							
		英語習得論研究	1前	2	○		1							
		フランス文学論研究	1前	2	○	1								
		小計（35科目）	-	0	70	0	-	19	16	0	0	0	0	-
専門科目（演習系）	法学コース	基礎法学研究演習Ⅰ	1後	2	○		1							
		公法研究演習Ⅰ	1後	2	○	1								
		公法研究演習Ⅱ	1後	2	○	1								
		公法研究演習Ⅲ	1後	2	○	1								
		民事法研究演習Ⅰ	1後	2	○	1								
		民事法研究演習Ⅱ	1後	2	○	1								
		民事法研究演習Ⅲ	1後	2	○		1							
		民事法研究演習Ⅳ	1後	2	○	1								
		刑事法研究演習Ⅰ	1後	2	○		1							
		応用法研究演習Ⅰ	1後	2	○	1								
		応用法研究演習Ⅱ	1後	2	○	1								
		国際関係法研究演習Ⅰ	1後	2	○	1								
		国際関係法研究演習Ⅱ	1後	2	○	1								
		政治学研究演習Ⅰ	1後	2	○	1								
		政治学研究演習Ⅱ	1後	2	○	1								
		政治学研究演習Ⅲ	1後	2	○	1								
		政治学研究演習Ⅳ	1後	2	○		1							
		政治学研究演習Ⅴ	1後	2	○		1							
		政治学研究演習Ⅵ	1後	2	○		1							
		政治学研究演習Ⅶ	1後	2	○		1							
法務プロジェクト演習1	1前	2	○	9	3									
法務プロジェクト演習2	1後	2	○	9	3									
政策プロジェクト演習1	1前	2	○	3	4									
政策プロジェクト演習2	1後	2	○	3	4									
小計（24科目）	-	0	48	0	-	12	7	0	0	0	0	-		
人文学コース	人間存在論研究演習	1後	2	○	1									
	倫理思想史研究演習	1後	2	○		1								
	美学美術史研究演習	1後	2	○		1								
	実験心理学研究演習	1後	2	○		1								
	認知心理学研究演習	1後	2	○	1									
	社会文化論研究演習	1後	2	○		1								
	社会人間論研究演習	1後	2	○		1								
	文化人類学研究演習	1後	2	○	1									
	地域システム論研究演習	1後	2	○	1									
	自然環境論研究演習	1後	2	○		1								
	東アジア考古学研究演習	1後	2	○	1									
	アジア考古学研究演習	1後	2	○		1								

専門科目 (演習系)	人文学 コース	埋蔵文化財論研究演習	1 後	2		○			1												
		日本歴史文化論研究演習	1 後	2		○		1													
		日本歴史交流論研究演習	1 後	2		○			1												
		アジア歴史文化論研究演習	1 後	2		○				1											
		アジア社会史研究演習	1 後	2		○		1													
		ヨーロッパ歴史文化論研究演習	1 後	2		○					1										
		言語類型論研究演習	1 後	2		○		1													
		現代日本語論研究演習	1 後	2		○		1													
		英語動態論研究演習	1 後	2		○		1													
		ドイツ語学研究演習	1 後	2		○						1									
		日本古典文学研究演習	1 後	2		○		1													
		日本中世文学研究演習	1 後	2		○		1													
		日本芸能史研究演習	1 後	2		○		1													
		日本近現代文学研究演習	1 後	2		○		1													
		中国思想史研究演習	1 後	2		○		1													
		中国古典文学研究演習	1 後	2		○		1													
		朝鮮言語文化論研究演習	1 後	2		○		1													
		イギリス近現代文学研究演習	1 後	2		○							1								
		英米言語文化論研究演習	1 後	2		○							1								
		英米コミュニケーション論研究演習	1 後	2		○		1													
		アメリカ現代文学論研究演習	1 後	2		○							1								
英語習得論研究演習	1 後	2		○							1										
フランス文学論研究演習	1 後	2		○		1															
小計 (35科目)	-	0	70	0	-			19	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
研究指導	法学 コース	法学研究指導 1	2 前	2		○		9													
		法学研究指導 2	2 後	2		○		9													
		政治学研究指導 1	2 前	2		○		3													
		政治学研究指導 2	2 後	2		○		3													
		小計 (4科目)	-	0	8	0	-		12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
研究指導	人文学 コース	人間文化研究指導 1	2 前	2		○		7	3												
		人間文化研究指導 2	2 後	2		○		7	3												
		言語文化研究指導 1	2 前	2		○		12													
		言語文化研究指導 2	2 後	2		○		12													
		小計 (4科目)	-	0	8	0	-		19	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
キャリア 科目 成り	インターンシップ	1 通	2			○		2												事前・事後指導を含む	
	小計 (1科目)	-	0	2	0	-		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計 (129科目)		-	2	250	0	-		31	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼6	-
学位又は称号		修士 (法学)、修士 (人文学)			学位又は学科の分野			法学関係、文学関係													
修了要件及び履修方法								授業期間等													
修了要件： 修士課程に2年以上在学して、所定の授業科目の中から30単位以上を修得し、かつ学位論文を提出して、その審査及び最終試験（口頭試問を含む）に合格することとする。また、学位論文の提出に関しては、研究科委員会が適当と認める場合は、特定の課題についての研究成果であるリサーチペーパーをもって代えることができる。								1 学年の学期区分							2 学期						
								1 学期の授業期間							1 5 週						
								1 時限の授業時間							9 0 分						
履修方法： 【法学コース】 研究科基礎科目から選択必修として3単位、専攻基礎科目から必修として2単位を修得すること。 法学コースの専門科目から選択必修として12単位以上を修得すること。 本専攻の専門科目（講義系・演習系）及びキャリア形成科目から5単位以上を修得すること。（他専攻の専門科目（理論科目）を5単位まで充当できるものとする。） 指導教員の担当する専門科目（演習系）の研究演習またはプロジェクト演習4単位と研究指導4単位を必修として修得すること。																					
【人文学コース】 研究科基礎科目から選択必修として3単位、専攻基礎科目から必修として2単位を修得すること。 人文学コースの専門科目から選択必修として12単位以上を修得すること。 本専攻の専門科目（講義系・演習系）及びキャリア形成科目から5単位以上を修得すること。（他専攻の専門科目（理論科目）を5単位まで充当できるものとする。） 指導教員の担当する専門科目（演習系）の研究演習4単位と研究指導4単位を必修として修得すること。																					

教育課程等の概要															
(人文社会科学研究科 産業システム創成専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科基礎科目	人文社会科学総合(法学)	1後		1		○									兼8 兼3 オムニバス オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同
	人文社会科学総合(人文学)	1後		1		○									
	人文社会科学総合(地域産業社会)	1前		1		○			2	2	1	1			
	研究フィールド実践	1通		1			○		13						
	小計(4科目)	—	0	4	0	—			13	2	1	1	0		兼11 —
専攻科目基礎	定量分析基礎	1前	1			○			1						オムニバス オムニバス・共同
	マネジメント基礎	1前	1			○			2	2					
	プロフェッショナル・リサーチ&ライティング	1後		1		○			5	4					
	小計(3科目)	—	2	1	0	—			8	6	0	0	0		
専門科目(理論科目)	理論基礎科目	ミクロ経済学1	1前	1		○			1						
		経済政策1	1後	1		○				1					
		西洋経済史1	1前	1		○				1					
		中国経済論1	1前	1		○				1					
		マーケティング1	1前	1		○					1				
		地域商業論1	1後	1		○					1				
		財務会計論1	1前	1		○				1					
		原価計算論1	1前	1		○				1					
		戦略的経営1	1前	1		○				1					
		生産管理論1	1後	1		○				1					
		経営管理論1	1後	1		○				1					
		情報産業論1	1前	1		○				1					
		数理経済学1	1前	1		○				1					
		情報管理論1	1前	1		○					1				
		社会統計学1	1後	1		○				1					
	理論応用科目	ミクロ経済学2	1後	1		○				1					
		経済政策2	1後	1		○					1				
		西洋経済史2	1前	1		○				1					
		中国経済論2	1後	1		○				1					
		マーケティング2	1前	1		○					1				
		地域商業論2	1後	1		○					1				
		財務会計論2	1前	1		○				1					
		原価計算論2	1後	1		○				1					
		戦略的経営2	1後	1		○				1					
		生産管理論2	1後	1		○				1					
		経営管理論2	1後	1		○				1					
		情報産業論2	1前	1		○				1					
		数理経済学2	1前	1		○				1					
		情報管理論2	1前	1		○					1				
		社会統計学2	1後	1		○				1					
小計(30科目)	—	0	30	0	—			11	4	0	0	0		—	

専門科目(理論科目)	環境・資源マネジメント	理論基礎科目	自然社会環境論1	1前		1		○				1									
			環境マネジメント1	1前		1		○					1								
			アーバンデザイン論1	1後		1		○						1							
			環境経済学1	1前		1		○					1								
			現代中国事情1	1前		1		○				1									
			人的資源管理論1	1後		1		○					1								
			健康マネジメント1	1前		1		○					1								
			地域景観論1	1前		1		○				1									
			比較地域論1	1前		1		○					1								
			地理情報システム論1	1前		1		○						1							
			農山漁村社会論1	1後		1		○							1						
			地域組織論1	1前		1		○							1						
			アジア社会発展論1	1前		1		○						1							
			水産社会論1	1後		1		○													兼1
国際地域イノベーション論	1前		2		○													兼1			
地域マネジメント1	1前		1		○													兼1			
公共ガバナンス	1後		2		○													兼1			
専門科目(理論科目)	環境・資源マネジメント	理論応用科目	自然社会環境論2	1前		1		○				1									
			環境マネジメント2	1後		1		○				1									
			アーバンデザイン論2	1後		1		○						1							
			環境経済学2	1前		1		○				1									
			現代中国事情2	1後		1		○				1									
			人的資源管理論2	1後		1		○					1								
			健康マネジメント2	1前		1		○					1								
			地域景観論2	1後		1		○				1									
			比較地域論2	1前		1		○					1								
			地理情報システム論2	1後		1		○						1							
			農山漁村社会論2	1後		1		○							1						
			地域組織論2	1前		1		○							1						
			アジア社会発展論2	1後		1		○						1							
			水産社会論2	1後		1		○													
地域マネジメント2	1前		1		○																
小計(32科目)			0	34	0					2	8	1	2	0			兼4				
専門科目(実践科目)	経済・経営コース	プロジェクト研究	経済理論プロジェクト研究	1後		1		○			3	1									
			市場・流通プロジェクト研究	1後		1		○				2									
			財務・金融プロジェクト研究	1後		1		○				2									
			経営・管理プロジェクト研究	1後		1		○				3									
			情報・数理プロジェクト研究	1後		1		○				3	1								
			小計(5科目)			0	5	0				11	4	0	0	0					
	環境・資源マネジメント	プロジェクト研究	環境政策プロジェクト研究	1後		1		○				2							兼1		
			ひと・まちづくりプロジェクト研究	1後		1		○			1	3	1						兼2		
			観光政策プロジェクト研究	1後		1		○			1										
			地域資源プロジェクト研究	1後		1		○				2		2							
	小計(4科目)			0	4	0				2	7	1	2	0			兼3				
	演習	専攻	産業システム創成演習	2後		1			○		13	13	1	2					兼3		
			小計(1科目)			1	0	0			13	13	1	2	0			兼3			
	キャリア形成	科目	実践力育成特論	2前		1		○			2	3							オムニバス・共同(一部)		
インターンシップ実践			2前		1				○	1	2							共同			
リーダーシップ論			2前	1			○				1	1						オムニバス・共同(一部)			
小計(3科目)			1	2	0				3	4	1	0	0								
研究指導	研究	産業システム創成研究指導	2通		4			○		14											
		プロジェクト実践研究	2通		4			○		14											
小計(2科目)			0	8	0				14	0	0	0	0								
合計(84科目)						4	88	0			14	13	2	2	0		兼15				
学位又は称号		修士(経済学)、修士(学術)		学位又は学科の分野				経済学関係													

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了要件：修士課程に2年以上在学して、所定の授業科目の中から30単位以上を修得し、かつ学位論文を提出して、その審査及び最終試験（口頭試問を含む）に合格することとする。また、学位論文の提出に関しては、研究科委員会が適当と認める場合は、特定の課題についての研究成果であるリサーチペーパーをもって代えることができる。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分
履修方法： 【経済・経営コース】 必修科目「定量分析基礎」、「マネジメント基礎」、「産業システム創成演習」、「リーダーシップ論」の4単位を修得すること。 研究科基礎科目から3単位以上、研究指導から4単位を修得すること。ただし、研究指導は原則として「産業システム創成研究指導」を履修し、「プロジェクト実践研究」は社会人特別選抜で入学した学生又は推薦入学特別選抜で入学した社会人学生のみ履修することができる。 専門科目（理論科目）、専門科目（実践科目）及びキャリア形成科目から19単位以上を修得すること。ただし、次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理論基礎科目から8単位以上、理論応用科目から4単位以上、プロジェクト研究科目から1単位以上を修得すること。ただし、法文学専攻・他研究科授業科目は理論基礎科目の修了要件単位数に5単位までしか充てることができない。 ・ プロジェクト研究科目は2単位までしか修了要件単位数に充てることができない。 ・ 環境・資源マネジメントコース授業科目の専門科目（理論科目・実践科目）は5単位までしか修了要件単位数に充てることができない。 ・ 法文学専攻・他研究科授業科目及び環境・資源マネジメントコース授業科目の専門科目（理論科目・実践科目）から修了要件単位数に充てることができる単位数は、合計5単位までとする。 【環境・資源マネジメントコース】 必修科目「定量分析基礎」、「マネジメント基礎」、「産業システム創成演習」、「リーダーシップ論」の4単位を修得すること。 研究科基礎科目から3単位以上、研究指導から4単位を修得すること。ただし、研究指導は原則として「産業システム創成研究指導」を履修し、「プロジェクト実践研究」は社会人特別選抜で入学した学生又は推薦入学特別選抜で入学した社会人学生のみ履修することができる。 専門科目（理論科目）、専門科目（実践科目）及びキャリア形成科目から19単位以上を修得すること。ただし、次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理論基礎科目から8単位以上、理論応用科目から4単位以上、プロジェクト研究科目から1単位以上を修得すること。ただし、法文学専攻・他研究科授業科目は理論基礎科目の修了要件単位数に6単位までしか充てることができない。 ・ プロジェクト研究科目は2単位までしか修了要件単位数に充てることができない。 ・ 経済・経営コース授業科目の専門科目（理論科目・実践科目）は6単位までしか修了要件単位数に充てることができない。 ・ 法文学専攻・他研究科授業科目及び経済・経営コース授業科目の専門科目（理論科目・実践科目）から修了要件単位数に充てることができる単位数は、合計6単位までとする。 		

教育課程等の概要															
(教育学研究科 教育実践高度化専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通基礎科目	及び教育課程の領域に編入する領域	授業研究の開発実践	1前		2		○			2	1				オムニバス・共同（一部）
		授業開発の理論と実際	1前		2		○			3	1				オムニバス・共同（一部）
		地域協働型デジタル教材開発演習	1前		4		○			4	3	1			兼1 オムニバス・共同（一部）
	な教科等の指導方法に実践的	心の教育の理論と実践	1前		2		○			2					共同集中
		授業における学習支援と指導法の事例分析	1前		2		○			1	2				オムニバス・共同（一部）
		小学校英語教育の実践研究	1前		2		○			1	1				共同
	生徒指導に指導及び教育相談	子どもの発達と感情	1前		2		○			1					オムニバス・共同（一部）集中
		生徒指導・進路指導の実践研究	1前		2		○			1		1			オムニバス
		子ども理解の心理アプローチ（調査法）	1前		2		○			2					兼3 オムニバス
		特別支援教育の理論と実践	1前		2		○			4					オムニバス
	学級経営に経営及び学校経営	学級経営の理論と実践	1前		2		○			2	1				オムニバス・共同（一部）
		学校組織のリーダーシップ	1前		2		○			1					共同
		データを活用した学校経営（調査法）	1前		2		○			1		1			兼1 共同
		子どもの資質・能力を高める学校経営論	1前		2		○			2					共同
	学校教育と教員の在り	教員の成長と職業倫理	1前		2		○			3					共同
		教師のライフストーリー省察と資質能力開発	1前		2		○			1					兼2 オムニバス・共同（一部）
		チーム学校協働演習	1前		4		○			5					オムニバス・共同（一部）
		愛媛の教育改革	1前		2		○			5					オムニバス・共同（一部）
	小計（18科目）	—	0	40	0				21	5	2	0	0	兼5	
(リーダーシップ開発コース)	(発展科目)	エビデンスに基づく教育政策・事業分析	1後		2			○		1	1				共同
		人材育成演習	1後		2			○		2					共同
		教員研修プログラム開発演習	1後		2			○		2					共同集中
		カリキュラムマネジメントと校内研修	1後		2			○							兼1 共同集中
		信頼を構築する学校危機管理	1後		2			○		1					兼1 共同
		地域とともにある学校の経営	1後		2			○		2	1	1			共同
		学校改善の実践的研究	1後		2			○		1	1				共同集中
		研究(課題)	学校改善課題研究1	1前		2			○		8	1	1		
	学校改善課題研究2	1後		2			○		8	1	1			共同	
	小計（9科目）	—	0	18	0				8	1	1	0	0	兼2	

(教育実践開発コース)	(発展科目)	教材開発高度化演習	1後	2		○	4	1				オムニバス・共同(一部)
		特別な教育ニーズへの対応	1後	2		○	2					オムニバス
		学級経営の事例研究	1後	2		○	2					共同
		教育課題解決のための教育プログラム開発演習	1後	2		○	1	1				オムニバス・共同(一部)
		児童生徒・保護者の教育相談実践	1後	2		○	1					兼2 共同
		集団づくりの道徳論的アプローチ	1後	2		○	1					共同
		生徒指導機能を生かした学習指導	1後	2		○	2					兼1 共同 集中
		子どもの問題行動の事例研究	1後	2		○	2					共同
		生徒指導と特別活動の実践研究	1後	2		○	1	1				共同
		進路指導の実践研究	1後	2		○	1		1			オムニバス・共同(一部)
		デジタル教材開発とその利用方法	1後	2		○	1					兼1 共同
		ソフトウェアを活用した校務支援	1後	2		○				1		兼1 共同
		プログラミングを活用した授業実践	1後	2		○	1			1		共同
		ICTを活用した授業実践開発	1後	2		○	1			1		共同
研(課題)	授業改善課題研究1	1前	2		○	5	3	1			兼1 共同	
	授業改善課題研究2	1後	2		○	5	3	1			兼1 共同	
	授業改善課題研究3	2通	4		○	5	3	1			兼1 共同	
小計(17科目)		—	0	36	0	—	13	3	2	0	0	兼3
コース別選択科目(教科領域コース)	(発展科目)	教科指導力高度化演習 基礎	1前	2		○	7	3				共同
		教科指導力高度化演習 発展	1後	2		○	7	3				共同
		教材研究の基礎理論(現代の国語)	1前	2		○						兼2 共同
		教材の開発と実践(現代の国語)	1後	2		○						兼2 共同
		教材研究の基礎理論(言語文化)	1前	2		○	1					兼2 共同
		教材の開発と実践(言語文化)	1後	2		○	1					兼1 共同
		教材研究の基礎理論(書写書道)	1前	2		○						兼1
		教材の開発と実践(書写書道)	1後	2		○						兼1
		教材研究の基礎理論(歴史)	1前	2		○			1			兼1 オムニバス・共同(一部)
		教材の開発と実践(歴史)	1後	2		○			1			兼1 オムニバス・共同(一部)
		教材研究の基礎理論(地理)	1前	2		○			1			兼2 オムニバス・共同(一部)
		教材の開発と実践(地理)	1後	2		○			1			兼2 オムニバス・共同(一部)
		教材研究の基礎理論(公民)	1前	2		○	1					兼2 オムニバス・共同(一部)
		教材の開発と実践(公民)	1後	2		○	1					兼2 オムニバス・共同(一部)
		教材研究の基礎理論(英語学・言語科学)	1前	2		○						兼1
		教材の開発と実践(英語学・言語科学)	1後	2		○						兼1
		教材研究の基礎理論(第二言語習得)	1前	2		○	1					兼1 オムニバス・共同(一部)
		教材の開発と実践(第二言語習得)	1後	2		○	1					兼1 オムニバス・共同(一部)
		教材研究の基礎理論(代数)	1前	2		○	2					共同
		教材の開発と実践(代数)	1後	2		○	2					共同
		教材研究の基礎理論(幾何)	1前	2		○	1					兼1 共同
		教材の開発と実践(幾何)	1後	2		○	1					兼1 共同
		教材研究の基礎理論(解析)	1前	2		○	1					兼1 共同
		教材の開発と実践(解析)	1後	2		○	1					兼1 共同
		教材研究の基礎理論(応用数学)	1前	2		○	1					兼1 共同
		教材の開発と実践(応用数学)	1後	2		○	1					兼1 共同
教材研究の基礎理論(物理)	1前	2		○	1					兼1 共同		
教材の開発と実践(物理)	1後	2		○	2					共同		
教材研究の基礎理論(化学)	1前	2		○	1					兼1		
教材の開発と実践(化学)	1後	2		○	1					兼1 共同		

コース別選択科目（教科領域コース）	（発展科目）	教材研究の基礎理論（生物）	1前	2		○		1			兼1	共同		
		教材の開発と実践（生物）	1後	2		○		1			兼1	共同		
		教材研究の基礎理論（地学）	1前	2		○		1			兼1	共同		
		教材の開発と実践（地学）	1後	2		○		1			兼1	共同		
		教材研究の基礎理論（電気）	1前	2		○	1		1				共同	
		教材の開発と実践（電気）	1後	2		○	1		1				共同	
		教材研究の基礎理論（機械）	1前	2		○				1		兼1	共同	
		教材の開発と実践（機械）	1後	2		○				1		兼1	共同	
		教材研究の基礎理論（材料加工）	1前	2		○	1					兼1	共同	
		教材の開発と実践（材料加工）	1後	2		○	1					兼1	共同	
		教材研究の基礎理論（スポーツ）	1前	2		○	1							
		教材の開発と実践（スポーツ）	1後	2		○			1			兼1	オムニバス・共同（一部）	
		教材研究の基礎理論（健康）	1前	2		○						兼2	オムニバス・共同（一部）	
		教材の開発と実践（健康）	1後	2		○			1					
		教材研究の基礎理論（食物）	1前	2		○			1			兼1	オムニバス・共同（一部）	
		教材研究の基礎理論（被服）	1前	2		○			1			兼1	オムニバス・共同（一部）	
		教材の開発と実践（食物・被服）	1後	2		○			1			兼2	共同	
		教材研究の基礎理論（保育・家庭生活）	1前	2		○						兼2	オムニバス・共同（一部）	
		教材の開発と実践（保育・家庭生活）	1後	2		○	1					兼1	共同	
		教材研究の基礎理論（器楽）	1前	2		○						兼3	オムニバス・共同（一部）	
		教材の開発と実践（器楽）	1後	2		○						兼3	オムニバス・共同（一部）	
		教材研究の基礎理論（鑑賞・創作）	1前	2		○	1					兼2	オムニバス・共同（一部）	
		教材の開発と実践（鑑賞・創作）	1後	2		○	1					兼2	オムニバス・共同（一部）	
		教材研究の基礎理論（歌唱）	1前	2		○			1			兼2	オムニバス・共同（一部）	
		教材の開発と実践（歌唱）	1後	2		○			1			兼2	オムニバス・共同（一部）	
		教材研究の基礎理論（絵画・彫刻）	1前	2		○			1			兼1	オムニバス・共同（一部）	
		教材の開発と実践（絵画・彫刻）	1後	2		○			1			兼1	オムニバス・共同（一部）	
		教材研究の基礎理論（デザイン・工芸）	1前	2		○			1					
		教材の開発と実践（デザイン・工芸）	1後	2		○			1					
		教材研究の基礎理論（美術理論・美術史）	1前	2		○			1					
		教材の開発と実践（美術理論・美術史）	1後	2		○			1					
		研（究）課題	教材開発課題研究1	1前	2		○		7	3				共同
			教材開発課題研究2	1後	2		○		7	3				共同
教材開発課題研究3	2通		4		○		7	3				共同		
	小計（64科目）	—	0	130	0	—	12	8	1	0	0	兼30		
コース別選択科目（特別支援教育コース）	（発展科目）	特別支援教育総論	1前	2		○		4				兼2	オムニバス	
		障害児の聴能の理論と実際	1前	2		○						兼1		
		聴覚言語障害への心理学的対応	1後	2		○						兼1		
		聴覚障害教育の理論と実践	1前	2		○	1							
		聞こえの困難への教育的対応	1後	2		○	1							
		認知機能の困難への心理的対応	1前	2		○	1							
		運動機能の困難への心理的対応	1前	2		○	1							
		保健医療福祉との連携と医療的対応	1前	2		○						兼1		
		学校における支援体制	1後	2		○	1					兼1	オムニバス	
		個別の指導計画の作成と実施	1後	2		○	1							
		社会的自立・就労の指導	1後	2		○	2						オムニバス	
		重複障害児の教育実践	1前	2		○	2					兼1	オムニバス・共同（一部）	
		読み書き困難への対応	1後	2		○	2						オムニバス・共同（一部）	

(特別支援教育コース) コース別選択科目	科目(発展)	計算・推論困難への対応	1後	2		○	2							オムニバス・共同(一部)	
		行動上の問題への対応	1後	2		○								兼1	
		アセスメントの方法と総合的解釈	1前	2		○	3							兼1	オムニバス
	研究(課題)	特別支援教育課題研究1	1前	2		○	4							兼2	共同
		特別支援教育課題研究2	1後	2		○	4							兼2	共同
		特別支援教育課題研究3	1通	4		○	4							兼2	共同
		小計(19科目)	—	0	40	0	—	4	0	0	0	0	0	兼3	
実習科目		異校種実習	1前	2		○	22	10	2						
		小規模校実習	1前	2		○	22	10	2						
		研究指定校実習	1後	2		○	22	10	2						
		連携校実習1	1通	4		○	22	10	2						
		連携校実習2	2通	4		○	22	10	2						
		連携校実習3	2後	2		○	22	10	2						
		特別支援教育連携校実習1	1通	4		○	3	2						兼1	共同
		特別支援教育連携校実習2	2前	4		○	2	2						兼1	共同
		特別支援教育連携校実習3	2後	2		○	2	4							共同
	小計(9科目)	—	0	26	0	—	24	10	2	0	0	0	兼2		
合計(136科目)			—	0	290	0	—	26	10	2	0	0	0	兼39	
学位又は称号		教職修士(専門職)			学位又は学科の分野			教員養成関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>教育実践高度化専攻の修了要件は、共通科目20単位、選択科目16単位以上、学校における実習科目10単位、合計46単位以上修得することとする。</p> <p>共通科目は、各領域から2単位以上、合計20単位以上を修得する。</p> <p>課題研究について、リーダーシップ開発コースの履修者は「学校改善課題研究1・2」、教育実践開発コースの履修者は「授業改善課題研究1・2・3」、教科領域コースの履修者は「教材開発課題研究1・2・3」、特別支援教育コースの履修者は「特別支援教育課題研究1・2・3」の中から履修する。</p> <p>実習科目について、異校種実習、小規模校実習、研究指定校実習は、専攻共通の実習科目であり、いずれも選択科目である。リーダーシップ開発コース、教育実践開発コース、教科領域コースの履修者は連携校実習1を必修科目、連携校実習2・3を選択科目とする。特別支援教育コースの履修者は、特別支援教育連携校実習1を必修科目、特別支援教育連携校実習2・3を選択科目とする。</p>							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要														
(教育学研究科 心理発達臨床専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	子どもの発達と学びの支援	1前	2			○								
	子どもの発達と環境要因	1後	2			○			1	1			兼1	オムニバス
	学校と地域の連携による学びの支援	1前	2			○					1			
	教育心理学特論	1後	2			○				1				
	医療心理学特論	1前	2			○				1				
	心理統計解析特論	1前		2		○				1	1			オムニバス
	臨床心理学特論1	1前		2		○							兼1	
	臨床心理学特論2	1後		2		○							兼1	
	臨床心理面接特論1	1前		2		○			1					
	臨床心理面接特論2	1後		2		○			1					
	臨床心理査定演習1	1前		2		○							兼1	
	臨床心理査定演習2	1後		2		○			1				兼1	オムニバス
	臨床心理学研究法特論	1前		2		○							兼1	
	投映法特論	1後		2		○							兼1	
	産業心理学特論	1後		2		○			1				兼1	オムニバス
	障害心理学特論	1前		2		○							兼1	
	社会病理学特論	1後		2		○			1				兼1	オムニバス
	家族心理学特論	1前		2		○				1				
	精神医学特論	1後		2		○							兼1	
	心の健康教育に関する理論と実践	2前		2		○							兼1	
	心理療法特論	2前		2		○							兼1	
	臨床発達心理学特論	1後		2		○							兼2	オムニバス
小計 (22科目)		—	10	34	0	—			2	5	1		兼12	
課題研究	心理臨床課題研究1	1通	2				○		2	1	1			
	心理臨床課題研究2	2通	2				○		2	1	1			
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			2	1	1			
実習科目	臨床心理基礎実習1	1前	1					○	2	1	1			兼1
	臨床心理基礎実習2	1後	1					○	2	1	1			兼1
	心理相談基礎実習	1後	1					○	2	1	1			兼1
	臨床心理実習1	2通	2					○	2	1	1			兼2
	臨床心理実習2	2通	1					○	1	1	1			兼1
	医療心理特別実習	2後		1				○	2	1	1			兼2
小計 (6科目)	—	6	1	0	—			2	1	1			兼2	
合計 (30科目)			—	20	35	0	—		2	5	1		兼12	
学位又は称号		修士 (臨床心理学)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係、文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
心理発達臨床専攻の修了要件は、必修科目10単位を含む専門科目30単位以上、課題研究4単位、実習科目6単位以上の合計40単位以上を修得し、修士論文の審査及び試験に合格すること。臨床心理士受験資格の取得を希望する場合は必修の実習科目を含む所定の単位を修得すること。それに加えて公認心理師受験資格の取得を希望する場合は、「医療心理特別実習」を含めた所定の単位を修得する。						1学年の学期区分				2学期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(医学系研究科 医学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	基礎研究方法論	1~4通	6	(6)		○			15	7	2	1		兼5 オムニバス
	大学院フォーラム	1~4通	4	(4)		○			1					
	小計(2科目)	—	10	(10)	0				15	7	2	1	0	
	医化学・細胞生物学講義	1~4通		6(4)		○			1	1		1		兼1
	医化学・細胞生物学演習	1~4通		7(4)			○		1	1		1		
	医化学・細胞生物学実習	1~4通		7(4)				○	1	1		1		
	生化学・分子遺伝学講義	1~4通		6(4)		○			1			1		
	生化学・分子遺伝学演習	1~4通		7(4)			○		1			1		
	生化学・分子遺伝学実習	1~4通		7(4)				○	1			1		
	分子細胞生理学講義	1~4通		6(4)		○			1	1				
	分子細胞生理学演習	1~4通		7(4)			○		1	1				
	分子細胞生理学実習	1~4通		7(4)				○	1	1				
	分子病態医学講義	1~4通		6(4)		○			1	1				
	分子病態医学演習	1~4通		7(4)			○		1	1				
	分子病態医学実習	1~4通		7(4)				○	1	1				
	血液・免疫・感染症内科学講義	1~4通		6(4)		○			1	1	1			
	血液・免疫・感染症内科学演習	1~4通		7(4)			○		1	1	1			
	血液・免疫・感染症内科学実習	1~4通		7(4)				○	1	1	1			
	小児科学講義	1~4通		6(4)		○			1	3	2			
	小児科学演習	1~4通		7(4)			○		1	3	2			
	小児科学実習	1~4通		7(4)				○	1	3	2			
	糖尿病内科学講義	1~4通		6(4)		○			1	1		1		
	糖尿病内科学演習	1~4通		7(4)			○		1	1		1		
	糖尿病内科学実習	1~4通		7(4)				○	1	1		1		
	精神神経科学講義	1~4通		6(4)		○			1	1	1			
	精神神経科学演習	1~4通		7(4)			○		1	1	1			
	精神神経科学実習	1~4通		7(4)				○	1	1	1			
	肝胆膵・乳腺外科学講義	1~4通		6(4)		○			1	1	2			
	肝胆膵・乳腺外科学演習	1~4通		7(4)			○		1	1	2			
	肝胆膵・乳腺外科学実習	1~4通		7(4)				○	1	1	2			
	皮膚科学講義	1~4通		6(4)		○			1	2	2	1		
	皮膚科学演習	1~4通		7(4)			○		1	2	2	1		
	皮膚科学実習	1~4通		7(4)				○	1	2	2	1		
	臨床腫瘍学講義	1~4通		6(4)		○			1					
	臨床腫瘍学演習	1~4通		7(4)			○		1					
	臨床腫瘍学実習	1~4通		7(4)				○	1					
	無細胞生命科学講義	1~4通		2		○								
	地域小児保健医療学講義	1~4通		6(4)		○				1	1			
	地域小児保健医療学演習	1~4通		7(4)			○			1	1			
	地域小児保健医療学実習	1~4通		7(4)				○		1	1			
	生体構造医学講義	1~4通		6(4)		○			1	1	1			
	生体構造医学演習	1~4通		7(4)			○		1	1	1			
	生体構造医学実習	1~4通		7(4)				○	1	1	1			
	循環生理学講義	1~4通		6(4)		○			1	1		1		
	循環生理学演習	1~4通		7(4)			○		1	1		1		
	循環生理学実習	1~4通		7(4)				○	1	1		1		
	薬理学講義	1~4通		6(4)		○			1	1				
	薬理学演習	1~4通		7(4)			○		1	1				
	薬理学実習	1~4通		7(4)				○	1	1				
	病態生理学講義	1~4通		6(4)		○			1					
	病態生理学演習	1~4通		7(4)			○		1					
	病態生理学実習	1~4通		7(4)				○	1					

發展科目 / (選科科目)	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講義	1~4通	6(4)	○			1	1	3	4
	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学演習	1~4通	7(4)		○		1	1	3	4
	循環器・呼吸器・腎高血圧内科学実習	1~4通	7(4)			○	1	1	3	4
	心臓血管・呼吸器外科学講義	1~4通	6(4)	○			1	3	1	
	心臓血管・呼吸器外科学演習	1~4通	7(4)		○		1	3	1	
	心臓血管・呼吸器外科学実習	1~4通	7(4)			○	1	3	1	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講義	1~4通	6(4)	○			1	1	1	1
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学演習	1~4通	7(4)		○		1	1	1	1
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学実習	1~4通	7(4)			○	1	1	1	1
	整形外科科学講義	1~4通	6(4)	○			1	1	2	
	整形外科科学演習	1~4通	7(4)		○		1	1	2	
	整形外科科学実習	1~4通	7(4)			○	1	1	2	
	泌尿器科学講義	1~4通	6(4)	○			1	2	1	
	泌尿器科学演習	1~4通	7(4)		○		1	2	1	
	泌尿器科学実習	1~4通	7(4)			○	1	2	1	
	放射線医学講義	1~4通	6(4)	○			1	1	2	1
	放射線医学演習	1~4通	7(4)		○		1	1	2	1
	放射線医学実習	1~4通	7(4)			○	1	1	2	1
	眼科学講義	1~4通	6(4)	○			1	1		
	眼科学演習	1~4通	7(4)		○		1	1		
	眼科学実習	1~4通	7(4)			○	1	1		
	口腔顎顔面外科学講義	1~4通	6(4)	○			1	1	2	1
	口腔顎顔面外科学演習	1~4通	7(4)		○		1	1	2	1
	口腔顎顔面外科学実習	1~4通	7(4)			○	1	1	2	1
	地域胸部疾患治療学講義	1~4通	6(4)	○			1			
	地域胸部疾患治療学演習	1~4通	7(4)		○		1			
	地域胸部疾患治療学実習	1~4通	7(4)			○	1			
	視機能再生学講義	1~4通	6(4)	○				1		
	視機能再生学演習	1~4通	7(4)		○			1		
	視機能再生学実習	1~4通	7(4)			○		1		
	地域眼科学講義	1~4通	6(4)	○				1		
	地域眼科学演習	1~4通	7(4)		○			1		
	地域眼科学実習	1~4通	7(4)			○		1		
	関節機能再建学講義	1~4通	6(4)	○				1		
	関節機能再建学演習	1~4通	7(4)		○			1		
	関節機能再建学実習	1~4通	7(4)			○		1		
	分子寄生虫学講義	1~4通	6(4)	○			1	1		
	分子寄生虫学演習	1~4通	7(4)		○		1	1		
	分子寄生虫学実習	1~4通	7(4)			○	1	1		
	免疫学講義	1~4通	6(4)	○			1			
	免疫学演習	1~4通	7(4)		○		1			
免疫学実習	1~4通	7(4)			○	1				
感染防御学講義	1~4通	6(4)	○			1		1		
感染防御学演習	1~4通	7(4)		○		1		1		
感染防御学実習	1~4通	7(4)			○	1		1		
分子病理学講義	1~4通	6(4)	○			1	1			
分子病理学演習	1~4通	7(4)		○		1	1			
分子病理学実習	1~4通	7(4)			○	1	1			
解析病理学講義	1~4通	6(4)	○			1				
解析病理学演習	1~4通	7(4)		○		1				
解析病理学実習	1~4通	7(4)			○	1				
消化器・内分泌・代謝内科学講義	1~4通	6(4)	○			1	2	2	3	
消化器・内分泌・代謝内科学演習	1~4通	7(4)		○		1	2	2	3	
消化器・内分泌・代謝内科学実習	1~4通	7(4)			○	1	2	2	3	
臨床薬理学講義	1~4通	6(4)	○				1			
臨床薬理学演習	1~4通	7(4)		○			1			
臨床薬理学実習	1~4通	7(4)			○		1			
消化管・腫瘍外科学講義	1~4通	6(4)	○			1	1	1		
消化管・腫瘍外科学演習	1~4通	7(4)		○		1	1	1		
消化管・腫瘍外科学実習	1~4通	7(4)			○	1	1	1		
産科婦人科学講義	1~4通	6(4)	○			1	2	1		
産科婦人科学演習	1~4通	7(4)		○		1	2	1		
産科婦人科学実習	1~4通	7(4)			○	1	2	1		

脳神経外科学講義	1~4通	6(4)	○			1	1	1		
脳神経外科学演習	1~4通	7(4)		○		1	1	1		
脳神経外科学実習	1~4通	7(4)			○	1	1	1		
麻酔・周術期学講義	1~4通	6(4)	○			1	1	1		
麻酔・周術期学演習	1~4通	7(4)		○		1	1	1		
麻酔・周術期学実習	1~4通	7(4)			○	1	1	1		
救急医学講義	1~4通	6(4)	○			1				
救急医学演習	1~4通	7(4)		○		1				
救急医学実習	1~4通	7(4)			○	1				
病態機能解析部門講義	1~4通	6(4)	○				1	1		
病態機能解析部門演習	1~4通	7(4)		○			1	1		
病態機能解析部門実習	1~4通	7(4)			○		1	1		
分子毒性学講義	1~4通	2	○							
地域生活習慣病・内分泌学講義	1~4通	6(4)	○			1				
地域生活習慣病・内分泌学演習	1~4通	7(4)		○		1				
地域生活習慣病・内分泌学実習	1~4通	7(4)			○	1				
地域消化器免疫医療学講義	1~4通	6(4)	○				1			
地域消化器免疫医療学演習	1~4通	7(4)		○			1			
地域消化器免疫医療学実習	1~4通	7(4)			○		1			
脳神経先端医学講義	1~4通	6(4)	○				1			
脳神経先端医学演習	1~4通	7(4)		○			1			
脳神経先端医学実習	1~4通	7(4)			○		1			
地域低侵襲消化器医療学講義	1~4通	6(4)	○				1			
地域低侵襲消化器医療学演習	1~4通	7(4)		○			1			
地域低侵襲消化器医療学実習	1~4通	7(4)			○		1			
病理診断科講義	1~4通	6(4)	○				1			
病理診断科演習	1~4通	7(4)		○			1			
病理診断科実習	1~4通	7(4)			○		1			
疫学・公衆衛生学講義	1~4通	6(4)	○			1	1			
疫学・公衆衛生学演習	1~4通	7(4)		○		1	1			
疫学・公衆衛生学実習	1~4通	7(4)			○	1	1			
法医学講義	1~4通	6(4)	○			1				
法医学演習	1~4通	7(4)		○		1				
法医学実習	1~4通	7(4)			○	1				
医療情報学講義	1~4通	6(4)	○			1				
医療情報学演習	1~4通	7(4)		○		1				
医療情報学実習	1~4通	7(4)			○	1				
医学教育学講義	1~4通	6(4)	○			1		1		
医学教育学演習	1~4通	7(4)		○		1		1		
医学教育学実習	1~4通	7(4)			○	1		1		
脳神経内科・老年医学講義	1~4通	6(4)	○			1	1	2		
脳神経内科・老年医学演習	1~4通	7(4)		○		1	1	2		
脳神経内科・老年医学実習	1~4通	7(4)			○	1	1	2		
医療薬学講義	1~4通	6(4)	○				1			
医療薬学演習	1~4通	7(4)		○			1			
医療薬学実習	1~4通	7(4)			○		1			
医療教育学講義	1~4通	6(4)	○			1				
医療教育学演習	1~4通	7(4)		○		1				
医療教育学実習	1~4通	7(4)			○	1				
地域医療学講義	1~4通	6(4)	○			1	1			
地域医療学演習	1~4通	7(4)		○		1	1			
地域医療学実習	1~4通	7(4)			○	1	1			
地域医療再生学講義	1~4通	6(4)	○			1	1			
地域医療再生学演習	1~4通	7(4)		○		1	1			
地域医療再生学実習	1~4通	7(4)			○	1	1			
地域救急医療学講義	1~4通	6(4)	○			1	1			
地域救急医療学演習	1~4通	7(4)		○		1	1			
地域救急医療学実習	1~4通	7(4)			○	1	1			
地域小児・周産期学講義	1~4通	6(4)	○			2				
地域小児・周産期学演習	1~4通	7(4)		○		2				
地域小児・周産期学実習	1~4通	7(4)			○	2				
救急航空医療学講義	1~4通	6(4)	○			1				
救急航空医療学演習	1~4通	7(4)		○		1				

	救急航空医療学実習	1~4通		7(4)			○		1						
	抗加齢医学講義	1~4通		6(4)		○			1						
	抗加齢医学演習	1~4通		7(4)			○		1						
	抗加齢医学実習	1~4通		7(4)				○	1						
	睡眠医療センター講義	1~4通		6(4)		○				1					
	睡眠医療センター演習	1~4通		7(4)			○			1					
	睡眠医療センター実習	1~4通		7(4)				○		1					
	総合診療サポートセンター講義	1~4通		6(4)		○				1					
	総合診療サポートセンター演習	1~4通		7(4)			○			1					
	総合診療サポートセンター実習	1~4通		7(4)				○		1					
	医療安全管理部講義	1~4通		6(4)		○				1					
	医療安全管理部演習	1~4通		7(4)			○			1					
	医療安全管理部実習	1~4通		7(4)				○		1					
	小計(188科目)	—	0	1244(744)	0	—			48	54	33	14	0	兼2	
共通 コア 科目	研究方法論	1~4通	1			○			1						
	悪性腫瘍の管理と治療	1~4通	1			○			1						
	医療倫理と法律的・経済的問題	1~4通	0.5			○			1						
	医療とコミュニケーション	1~4通	0.5			○			1						
	がんチーム医療実習	1~4通	0.5			○			1						
	医療情報学	1~4通	0.5			○			1						
	小計(6科目)	—	4	0	0	—			1	0	0	0	0		
がん 専門 医共 通科 目	がんのベーシックサイエンスと臨床薬理学	1~4通	1			○			1						
	がんの臨床検査・病理診断・放射線診断学	1~4通	0.5			○			1						
	がん治療各論	1~4通	2			○			1						
	がん緩和治療	1~4通	0.5			○			1						
	小計(4科目)	—	4	0	0	—			1	0	0	0	0		
臨床 専門 腫瘍 科	臨床腫瘍学実習	1~4通	8					○	1						
	専門研究	1~4通	4				○		1					※実験	
	小計(2科目)	—	12	0	0	—			1	0	0	0	0		
合計(202科目)		—	30	1244(754)	0	—			48	54	33	15	0	兼6	
学位又は称号		博士(医学)			学位又は学科の分野			医学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
<p>発展科目/(選択科目)の単位数の()は選択科目の単位数を表す。</p> <p>本研究科に4年以上在籍し、主指導教員の指導のもとに上記に定める共通科目と発展科目(講義・演習・実習 各1つ以上)の単位(合計30単位以上)を取得するとともに、学位論文を提出してその審査および最終試験に合格した者に博士(医学)の学位を授与する。ただし、3年以上在学し優れた研究業績をあげた場合には、在学期間が4年未満であっても学位を授与することがある。</p> <p>また、本研究科の「臨床腫瘍学教育課程」においては、4年以上在学し、指導教員の指導の下に、上記に定める共通コア科目・がん専門医共通科目・臨床腫瘍医専門科目・選択科目の単位(合計30単位以上)を取得するとともに、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格した者に博士(医学)の学位を授与する。ただし、3年以上在学し優れた研究業績をあげた場合には、在学期間が4年未満であっても学位を授与することがある。</p>									1学年の学期区分			2期			
									1学期の授業期間			15週			
									1時限の授業時間			90分			

教育課程等の概要															
(医学系研究科 看護学専攻博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域健康システム看護学科目	地域看護学Ⅰ特論	1後		2		○			1						兼1 オムバス ※1 兼2 オムバス・共同(一部) ※1 兼1 オムバス・共同(一部) ※1 オムバス・共同(一部) ※1
	地域看護学Ⅰ特別演習	1後		2			○		1						
	地域看護学Ⅰ特別研究	1～2通		8				○	1						
	地域看護学Ⅱ特論	1後		2		○			1						
	地域看護学Ⅱ特別演習	1後		2				○	1						
	地域看護学Ⅱ特別研究	1～2通		8				○	1						
	高齢者看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	高齢者看護学特論Ⅱ	1前		2		○			1		1				
	高齢者看護学特別演習Ⅰ	1後		2				○	1		1				
	高齢者看護学特別演習Ⅱ	1後		2				○	2		2				
	高齢者看護学特別研究	1～2通		8				○	1						
	在宅看護学特論	1前		2		○				1					
	在宅看護学特別演習	1後		2				○		1					
	在宅看護学特別研究	1～2通		8				○		1					
	在宅高齢者看護学特論	1前		2		○					1				
	在宅高齢者看護学特別演習	1後		2				○			1				
	老年精神地域包括ケア学特論	1前		2		○			1						
	老年精神地域包括ケア特別演習	1後		2				○	1						
	老年精神地域包括ケア特別研究	1～2通		8				○	1						
	地域精神看護学特論	1前		2		○					1				
	地域精神看護学特別演習	1後		2				○			1				
	看護生理学特論	1前		2		○			1						
	看護生理学特別演習	1後		2				○	1						
	看護生理学特別研究	1～2通		8				○	1						
小計(24科目)	—		0	84	0			—	5	1	2	0	0	兼4	
基盤・実践看護学科目	基盤看護学Ⅰ特論	1前		2		○			1						
	基盤看護学Ⅰ特別演習	1後		2				○	1						
	基盤看護学Ⅰ特別研究	1～2通		8				○	1						
	基盤看護学Ⅱ特論	1前		2		○				1					
	基盤看護学Ⅱ特別演習	1後		2				○		1					
	基盤看護学Ⅱ特別研究	1～2通		8				○		1					
	基盤看護学Ⅲ特論	1前		2		○					1				
	基盤看護学Ⅲ特別演習	1後		2				○			1				
	外科系病態生理学特論	1後		2		○			1						
	外科系病態生理学特別演習	1後		2				○	1						
	外科系病態生理学特別研究	1～2通		8				○	1						
	成人看護学特論	1前		2		○			1						
	成人看護学特別演習	1後		2				○	1						
	成人看護学特別研究	1～2通		8				○	1						
	リプロダクティブヘルス看護学特論	1前		2		○			1						
	リプロダクティブヘルス看護学特別演習	1後		2				○	1						
	リプロダクティブヘルス看護学特別研究	1～2通		8				○	1						
	小児発達看護学特論	1前		2		○			1						
小児発達看護学特別演習	1後		2				○	1							
小児発達看護学特別研究	1～2通		8				○	1							
小計(20科目)	—		0	76	0			—	5	1	1	0	0		

共通授業科目	看護教育論	1後		2		○			1					兼1 オムニバ ※2	
	看護管理論	1後		2		○								兼2 オムニバ ※2	
	看護理論	1前		2		○				1				※2	
	看護研究方法論	1前	2			○			4					オムニバ・共 同(一部) ※1	
	看護研究演習	1後	2				○		1						
	コンサルテーション論	1後		2		○								兼1 ※2	
	看護倫理	1前		2		○			1					※1	
	看護政策論	1後		2		○			2					オムニバ ※2	
	地域包括ケア基礎論	1後		2		○			4		1			兼2 オムニバ ス・共同(一 部)	
	生体情報論	1後		2		○			1						
	統計学	1前		2		○			1					兼1 オムニバ ス	
	臨床薬理学	1後		2		○			2					兼9 オムニバ ス・共同(一 部) ※1	
	フィジカルアセスメント	1前		2		○			1					兼4 オムニバ ス ※1	
	病態生理学	1前		2		○			2					兼4 オムニバ ス ※1	
小計(14科目)	—	4	24	0	—	—	—	8	1	1	0	0	兼21		
老人看護専門看護師養成プログラム科目	専門分野基礎科目	高齢者病態治療論	1前		2		○		3					兼4 オムニバ ス ※1	
		高齢者生活援助論	1前		2		○		1		1			兼3 オムニバ ス ※1	
		高齢者支援システム論	1前		2		○				1			兼2 オムニバ ス・共同(一 部) ※1	
	小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	3	0	1			0	兼9	
	実習科目	高齢者実践看護実習Ⅰ	1後		4			○	1		1				集中 ※1 共同
		高齢者実践看護実習Ⅱ	2前		6			○	1		1				集中 ※1 共同
	小計(2科目)	—	0	10	0	—	—	1	0	1	0	0	0	集中 ※1 共同	
課題研究	2通		2			○		1						※1	
小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	1	0	0	0	0	0			
合計(64科目)	—	4	202	0	—	—	—	10	1	3	0	0	0	兼33	
学位又は称号		修士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了要件は博士前期課程に2年以上在学し、指導教員の担当する特論2単位、特別演習2単位、特別研究8単位、上記以外の特論、特別演習から4単位以上、共通授業科目の必修科目4単位、選択科目から10単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文審査並びに最終試験に合格すること。 老人看護専門看護師養成プログラムを履修する場合は、必修科目(※1)36単位、選択科目(※2)から4単位以上の合計40単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文審査並びに最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(医学系研究科 看護学専攻博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	生活支援看護開発学特講	1前	2			○			6	1				オムニバス 兼2 オムニバス オムニバス・共 同(一部)
	地域看護システム開発学特講	1前	2			○			3					
	地域包括ケア演習	1後	2				○		4	1	1			
	小計(3科目)	—	6	0	0	—	—	—	9	1	1	0	0	
関 連 科 目	地域医療学	1後		2		○			2					兼5 オムニバス 兼1 オムニバス 兼1 オムニバス
	応用統計学	1後		2		○				1				
	研究方法特講	1後		2		○			3					
小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	—	5	1	0	0	0	兼6	
研 特 究 別	地域包括ケア開発学特別研究	1～3通年	6				○		9	2	1			
	小計(1科目)	—	6	0	0	—	—	—	9	2	1	0	0	
合計(7科目)		—	12	6	0	—	—	—	9	2	1	0	0	兼8
学位又は称号		博士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
修了要件は博士後期課程に3年以上在学し、専門科目の必修科目6単位、関連科目の選択科目から2単位以上、特別研究の必修単位6単位の合計14単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文審査並びに最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要															
(理工学研究科 理工学専攻博士前期課程 産業基盤プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	研究倫理特論	1通	1			○			7	2					共同
	科学・技術英語	1・2通	1			○			6	5	2				共同
	アカデミックプレゼンテーション	1・2	1					○	75	72	10	31			共同 集中
	修士特別研究1	1通	2					○	75	72	10	31			共同
	修士特別研究2	2通	2					○	75	72	10	31			共同
	小計（5科目）	—	7	0	0	—			75	72	10	31	0		
科目群A	データサイエンス概論	1前		1		○			3	1		1			オムニバス
	SDGs概論	1前		1		○			2						兼6 オムニバス
	リーダーシップの理論と実践	1後		1		○									兼1
	プロジェクトマネジメント概論	1前		1		○									兼1
	MOT特論	2前		1		○									兼1
小計（5科目）	—	0	5	0	—			5	1	0	1	0		兼8	
プログラム共通科目	ものづくり工学特論1（機械工学特別講義1）	1前		1		○			1						兼1
	ものづくり工学特論2（機械工学特別講義2）	1前		1		○			1						兼1
	ものづくり工学特論3（機能材料工学ゼミナール）	1前		1		○			6	4		2			オムニバス
	ものづくり工学特論4（金属資源循環工学特論）	1後		1		○				1					
	ものづくり工学特論5（応用化学の最先端1）	1前		1		○			9	8	3	3			オムニバス
	ものづくり工学特論6（応用化学の最先端2）	1後		1		○			9	8	3	3			オムニバス
小計（6科目）	—	0	6	0	—			16	12	3	5	0		兼1	
科目群C	知的財産権特論	2前		1		○									兼1
	センシングと応用	1前		2		○			15	8	1	2			オムニバス
	インターンシップ	1・2		1				○	5	3	1	1			共同 集中
	安全衛生管理概論	1前		1		○			5	1	1				オムニバス
	化学物質管理の基礎知識	1・2前		1		○			2						兼3 オムニバス
	DS/AI活用PBL演習1	1前		1				○	2	4	2	2			共同
	DS/AI活用PBL演習2	1後		1				○	2	4	2	2			共同
	応用数学特論1A	1前		2		○				1					
	応用数学特論1B	1前		2		○				1					
	応用数学特論2A	1後		2		○				1					
応用数学特論2B	1後		2		○					1					
小計（11科目）	—	0	16	0	—			24	14	5	4	0		兼4	
専門科目	システム動力学	1・2前		2		○			1						隔年（奇数年）
	機械振動学	1・2前		2		○				1					隔年（偶数年）
	現代制御理論	1・2後		2		○			1						隔年（奇数年）
	知能機械システム学	1・2前		2		○				1					隔年（偶数年）
	知的制御システム特論	1・2後		2		○					1				隔年（偶数年）
	粘性流体力学	1・2前		2		○			1						
	統計熱力学	1・2前		2		○			1						隔年（偶数年）
	燃焼工学	1・2後		2		○			1						隔年（奇数年）
	計算熱力学	1・2後		2		○				1					隔年（偶数年）
	伝熱工学特論	1・2前		2		○				1					隔年（奇数年）
	発展流体力学	1・2後		2		○				1					隔年（偶数年）
	材料強度学	1・2前		2		○			1						隔年（奇数年）
	先端加工学	1・2後		2		○			1						隔年（奇数年）
	先端塑性工学特論	1・2後		2		○				1					隔年（偶数年）
	材料力学特論	1・2前		2		○					1				隔年（偶数年）
	先端材料学	1・2前		2		○				1					隔年（奇数年）
	船舶操縦制御特論	1・2前		2		○			1						隔年（奇数年）
	数値構造解析学	1・2前		2		○					1				隔年（奇数年）
	国際交流特別活動	1・2		1				○	7	7					共同 集中
小計（19科目）	—	0	37	0	—			8	7	3	0	0			

機能材料工学	無機機能材料工学特論	1 前		2		○			1												
	ガラス・スラグ工学特論	1 前		2		○			1												
	材料組織デザイン工学特論	1 前		2		○			1												
	光物性工学特論	1 後		2		○			1												
	固体表面化学特論	1 後		2		○			1												
	電気電子物性工学特論	1 前		2		○			1												
	接合工学特論	1 後		2		○					1										
	磁性体工学特論	1 後		2		○					2										
	材料評価技術概論	1 前		1		○					2			2							
	材料評価技術実習	1 前		1				○						2							
	機能材料工学セミナー	1 通		4				○		2											
	繊維・高分子材料評価特論	1 後		1		○				1											
	機能材料工学特別講義 1	1 前		1		○				1								兼1	共同	集中	
	機能材料工学特別講義 2	1 後		1		○				1								兼1	共同	集中	
	先端複合材料特論	1 後		2		○												兼1	集中		
	材料機能設計学特論	1 後		2		○												兼1	集中		
	小計 (16 科目)	—		0	29	0	—			7	4	0	2	0				兼4			
	専門科目	有機化学	有機化学特論 1	1・2前		2		○			1	1									
			有機化学特論 2	1・2後		2		○			1		1								
			高分子化学特論 1	1・2前		2		○			1										
高分子化学特論 2			1・2後		1		○					1									
高分子化学特論 3			1・2後		1		○						1								
無機化学特論			1・2前		2		○			1	1			1							
分析化学特論			1・2前		2		○					1	1								
物理化学特論			1・2後		2		○			2											
生物工学特論			1・2後		2		○			1				1							
生物化学特論 1			1・2前		2		○			1	2										
応用化学		生物化学特論 2	1・2後		2		○			1	2			1							
		生物化学研究方法論 1	1・2前		2		○			1									兼3	オムニバス	
		生物化学研究方法論 2	1・2後		2		○			1									兼3	オムニバス	
		応用化学特別講義 1	1・2前		1		○												兼1	集中	
		応用化学特別講義 2	1・2前		1		○												兼1	集中	
		応用化学特別講義 3	1・2後		1		○												兼1	集中	
		海外短期留学	1・2前		2				○		9	8	3	3						兼中※講義・演習 共同	
		応用化学特別演習 1	1通		2				○		9	8	3	3						共同	
		応用化学特別演習 2	2通		2				○		9	8	3	3						共同	
		応用化学セミナー 1	1通		2		○				9	8	3	3						共同	
応用化学セミナー 2	2通		2		○				9	8	3	3						共同			
小計 (21 科目)	—		0	37	0	—			9	8	3	3	0				兼6				
合計 (83 科目)		—		7	130	0	—		75	72	10	31	0				兼23				
学位又は称号	修士 (工学)		学位又は学科の分野				工学関係														
卒業要件及び履修方法									授業期間等												
下記の要件を満たす30単位以上を修得し、学位論文審査及び最終試験に合格すること。 (1)専攻共通科目7単位を修得している。 (2)プログラム共通科目6単位以上(科目群Aから2単位以上、科目群Bから3単位以上)を修得している。 (3)専攻する分野の専門科目14単位以上を修得している。 (注)理工学研究科の他のプログラム、または他の研究科の授業科目の修得単位を修了要件に加えることができる。									1 学年の学期区分					2 学期							
									1 学期の授業期間					1 5 週							
									1 時限の授業時間					9 0 分							

教育課程等の概要														
(理工学研究科 理工学専攻博士前期課程 社会基盤プログラム)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻共通科目	研究倫理特論	1通	1			○			7	2				共同 共同 共同 集中 共同 共同
	科学・技術英語	1・2通	1			○			6	5	2			
	アカデミックプレゼンテーション	1・2	1					○	75	72	10	31		
	修士特別研究1	1通	2					○	75	72	10	31		
	修士特別研究2	2通	2					○	75	72	10	31		
	小計（5科目）	—	7	0	0	—	—	—	75	72	10	31	0	
科目群A	データサイエンス概論	1前		1		○			3	1		1		オムニバス 兼6 オムニバス 兼1 兼1 兼1 兼8
	SDGs 概論	1前		1		○			2					
	リーダーシップの理論と実践	1後		1		○								
	プロジェクトマネジメント概論	1前		1		○								
	MOT特論	2前		1		○								
	小計（5科目）	—	0	5	0	—	—	—	5	1	0	1	0	
科目群B	社会基盤学特論	2前		1		○			5	2				オムニバス 兼5 オムニバス 兼1
	新エネルギーと都市デザイン	1後		2		○			1					
	情報通信システム特論	1後		2		○			1					
	ICT社会論	1後		2		○			1	1				
	サイバーセキュリティ特論	1後		1		○								
	人工知能概論A	1前		2		○			1					
	小計（6科目）	—	0	10	0	—	—	—	8	3	0	0	0	
科目群C	知的財産権特論	2前		1		○								兼1 オムニバス 共同 集中 オムニバス 共同 共同
	センシングと応用	1前		2		○			15	8	1	2		
	インターシップ	1・2		1				○	5	3	1	1		
	安全衛生管理概論	1前		1		○			5	1	1			
	DS/AI活用PBL演習1	1前		1				○	2	4	2	2		
	DS/AI活用PBL演習2	1後		1				○	2	4	2	2		
	応用数学特論1A	1前		2		○				1				
	応用数学特論1B	1前		2		○				1				
	応用数学特論2A	1後		2		○				1				
	応用数学特論2B	1後		2		○					1			
	小計（10科目）	—		15		—	—	—	22	14	5	4	0	
環境建設工学	防災・減災工学	1前		2		○			2			1		共同 ※実験・実習、共同 ※講義 オムニバス ※演習、オムニバス ※演習、オムニバス ※演習 ※講義、オムニバス オムニバス ※演習 共同 共同
	社会基盤デザイン原理	1後		2		○			1	1				
	実践アセットマネジメント	1前		2				○		1				
	固体数値シミュレーション	1後		2		○			1		1			
	環境動態シミュレーション	1後		2		○			1	1				
	生物多様性と人間活動	1前		2		○			1	1				
	行動科学論	1前		2		○				1				
	システム工学論	1前		2				○	1			1		
	地域マネジメント論	1前		2		○			1			1		
	公共ガバナンス論	1後		2		○				1				
	環境建設工学ゼミナール1	1～2		3				○	8	7	1	3		
	環境建設工学ゼミナール2	1～2		3				○	8	7	1	3		
	小計（12科目）	—	0	26	0	—	—	—	10	8	1	3	0	

電 気 電 子 工 学	電磁気学応用特論	1前	2	○	1	1												
	電気回路応用特論	1前	2	○	1	1												
	電子回路応用特論	1前	2	○	1	1												
	プラズマ工学特論	1・2後	2	○	1													
	高電圧工学特論	1・2後	2	○	1	1												
	電気電子材料特論	1・2後	2	○	1													
	半導体デバイス特論	1・2後	2	○	1	1												
	最適化数学特論	1・2後	2	○	1	1												
	デジタル信号処理特論	1・2後	2	○	1													
	電気電子工学ゼミナール1	1～2	3					○	5	6								
	電気電子工学ゼミナール2	1～2	3					○	5	6								
	小計（11科目）	—	0	24	0	—	—	—	5	6	0	1	0					
	専 門 科 目	応 用 情 報 工 学	ネットワークシステム特論	1前	2	○	1											
情報セキュリティ特論			1後	2	○	1	1											
システム解析特論			1前	2	○	1	1											
デジタル通信特論			1後	1	○	1												
システム開発特別演習			1後	2		1	2	○	1	2								
マーケティングとビジネスモデル特別講義			1通	1	○	1			1									
専 門 科 目		計算機システム概論B	1前	1	○	1								1				
		計算機システム特論	1前	1	○	1												
		分散処理システム特論	1前	2	○	1	1											
		人工知能概論B	1後	1	○	1												
		知的情報処理システム特論	1前	1	○	1												
		画像処理概論B	1前	1	○	1								1				
		デジタル信号処理特論	1・2後	2	○	1									1			
発展的ICT総合科目1	1前	1		1	1	○	1	1										
発展的ICT総合科目2	1後	1		1	1	○	1	1										
小計（15科目）	—	0	21	0	—	—	—	6	4	1	2	0						
合計（64科目）		—	7	101	0	—	—	75	72	10	31	0						
学位又は称号	修士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係												
卒業要件及び履修方法						授業期間等												
下記の要件を満たす30単位以上を修得し、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 (1)専攻共通科目7単位を修得している。 (2)プログラム共通科目6単位以上（科目群Aから2単位以上、科目群Bから3単位以上）を修得している。 (3)専攻する分野の専門科目16単位以上を修得している。 (注)理工学研究科の他のプログラム、または他の研究科の授業科目の修得単位を修得要件に加えることができる。						1学年の学期区分				2学期								
						1学期の授業期間				15週								
						1時限の授業時間				90分								

教育課程等の概要															
(理工学研究科 理工学専攻博士前期課程 数理情報プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	研究倫理特論	1通	1			○			7	2				共同 共同 共同 集中 共同 共同	
	科学・技術英語	1・2通	1			○			6	5	2				
	アカデミックプレゼンテーション	1・2	1					○	75	72	10	31			
	修士特別研究1	1通	2					○	75	72	10	31			
	修士特別研究2	2通	2					○	75	72	10	31			
	小計（5科目）	—	7	0	0	—	—	—	75	72	10	31	0		
プログラム共通科目	基礎科目	数理情報基礎	1前	2			○		8	3	1	2		※講義 オムニバス オムニバス ※講義 オムニバス 兼6 兼1	
		応用数学基礎	1後		2		○			2					
		プログラミング基礎	1後		2			○		1					
		SDGs 概論	1前		1		○			2					
		MOT特論	2前		1		○								
	小計（5科目）	—	2	6	0	—	—	—	11	5	1	2	0		
	実践科目	数理情報セミナーA	1前	2			○			13	12	2	4		共同 共同 共同 共同 共同 共同 集中
		数理情報セミナーB	1後	2			○			13	12	2	4		
		数理情報セミナーC	2前		2		○			13	12	2	4		
		数理情報セミナーD	2後		2		○			13	12	2	4		
DS/AI活用PBL演習1		1前		1			○		2	4	2	2			
DS/AI活用PBL演習2		1後		1			○		2	4	2	2			
インターンシップ		1・2		1				○	5	3	1	1			
小計（7科目）	—	4	7	0	—	—	—	18	14	3	4	0			
専門科目	概論科目	代数学概論A	1・2前		3		○			2	1			毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス 毎年 オムニバス	
		代数学概論B	1・2前		3		○			2	1				
		幾何学概論A	1・2後		3		○			1			1		
		幾何学概論B	1・2後		3		○			1			1		
		解析学概論A	1・2前		3		○				2		1		
		解析学概論B	1・2前		3		○				2		1		
		応用数理情報概論A	1・2前		3		○			1	2				
		応用数理情報概論B	1・2前		3		○			1	1				
		計算機システム概論A	1後		2		○			1	1		1		
		計算機システム概論B	1前		1		○			1			1		
		人工知能概論A	1前		2		○			1					
		人工知能概論B	1後		1		○			1					
		画像処理概論A	1後		2		○					1	1		
		画像処理概論B	1前		1		○					1			
小計（14科目）	—	0	33	0	—	—	—	8	6	1	3	0			

専門科目	代数学特論	1後		2		○			1										
	位相数学特論	1後		2		○			1										
	幾何学特論	1前		2		○			1										
	解析学特論	1後		2		○				1									
	応用数理特論	1後		2		○			1										
	計算機システム特論	1前		1		○			1										
	画像処理・理解特論	1前		1		○						1							
	分散処理システム特論	1前		2		○			1	1								共同	
	知的情報処理システム特論	1前		1		○				1									
	ソフトウェアシステム特論	1後		1		○						1							
	知的コミュニケーション特論	1後		1		○							1						
	情報基盤システム特論	1後		1		○			1										
	ソフトウェア工学特論	1前		1		○					1								
	システム解析特論	1前		2		○					1								
	情報セキュリティ特論	1後		2		○					1								兼2 ※演習 オムニバス
	ネットワークシステム特論	1前		2		○			1										
小計（16科目）		—	0	25	0	—		8	6	1	2	0	兼2						
合計（47科目）			—	13	71	0	—	75	72	10	31	0	兼9						
学位又は称号	修士（数理情報学）		学位又は学科の分野				理学関係・工学関係												
卒業要件及び履修方法								授業期間等											
下記の要件を満たす30単位以上を修得し、学位論文審査及び最終試験に合格すること。 (1) 専攻共通科目7単位を修得している。 (2) プログラム共通科目10単位以上（基盤科目から数理情報基礎（2単位）を含む4単位以上、実践科目から数理情報セミナーA、B（各2単位、計4単位）を含む6単位以上）を修得している。 (3) 専門科目のうち、概論科目6単位以上、特論科目2単位以上を修得している。 （注）理工学研究科の他のプログラム、または他の研究科の授業科目の修得単位を修了要件に加えることができる。								1学年の学期区分				2学期							
								1学期の授業期間				15週							
								1時限の授業時間				90分							

教 育 課 程 等 の 概 要															
（理工学研究科 理工学専攻博士前期課程 自然科学基盤プログラム）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	研究倫理特論	1通	1			○			7	2					共同 共同 共同 集中 共同 共同
	科学・技術英語	1・2通	1			○			6	5	2				
	アカデミックプレゼンテーション	1・2	1					○	75	72	10	31			
	修士特別研究1	1通	2					○	75	72	10	31			
	修士特別研究2	2通	2					○	75	72	10	31			
	小計（5科目）	—	7	0	0	—			75	72	10	31	0		
プログラム共通科目	化学物質管理の基礎知識	1・2前		1		○			2						兼3 オムニバス 兼6 オムニバス 兼1 オムニバス 兼1 共同 共同 共同 共同 共同 集中 共同 集中 共同 集中 兼10
	実験・フィールドワークの安全衛生	1・2前		1		○			3	1					
	データサイエンス概論	1・2前		1		○			3	1		1			
	SDGs 概論	1・2前		1		○			2						
	知的財産権特論	1・2前		1		○									
	高等セミナーA	1前		3		○			22	27		18			
	高等セミナーB	1後		3		○			22	27		18			
	高等セミナーC	2前		3		○			22	27		18			
	高等セミナーD	2後		3		○			22	27		18			
	国際学術セミナー	1・2通		1		○			1	3					
	学外特別研修1	1通		1		○			1	3					
	学外特別研修2	2通		1		○			1	3					
	インターンシップ	1・2		1				○	5	3	1	1			
	小計（13科目）	—	0	21	0	—			33	31	1	19	0		
物理学	量子力学特論	1・2前		2		○				1					隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 兼1 兼1 兼1
	物性物理学特論	1・2前		2		○				1					
	宇宙物理学特論	1・2前		2			○			1					
	溶液物性基礎論	1・2前		2		○		○				1			
	光物性物理学	1・2後		2		○						1			
	統計物理学特論	1・2前		2		○			1						
	銀河宇宙物理学	1・2前		2			○		1						
	宇宙プラズマ物理学	1・2後		2		○				1					
	高エネルギー天文学	1・2前		2			○		1		1				
	電波干渉計特論	1・2後		2		○									
	銀河電波天文学特論	1・2前		2		○									
	宇宙物理学1	1・2前		2		○									
	力学特論	1後		2			○		1						
	電磁気学特論	1前		2		○				1					
	高周波基礎論	1前		2		○			1						
小計（15科目）	—	0	30	0	—			5	5	0	2	0			

専門科目	地球科学	地質学特論A	1・2前	2	○	1					隔年		
		地質学特論B	1・2前	2	○		1				隔年		
		進化古生物学A	1・2通	2	○		1				隔年		
		進化古生物学B	1・2通	2	○			1			隔年		
		岩石鉱物特論	1・2後	2	○			1		1	オムニバス		
		鉱物物性理論A	1・2後	2	○		1				隔年		
		鉱物物性理論B	1・2後	2	○			1			隔年		
		固体地球物理学特論A	1・2前	2	○					1	隔年		
		固体地球物理学特論B	1・2前	2	○		1				隔年		
		地球惑星構造学	1・2前	2	○		1	1			オムニバス		
		地球惑星物性学	1・2後	2	○			2			共同		
		大気海洋学	1・2前	2	○		1						
		海洋力学	1・2後	2	○		1						
		地球環境変動学	1・2前	2	○			1					
		地球科学高等実習A	1前	2			8	8		6	共同		
		地球科学高等実習B	1後	2			8	8		6	共同		
		地球科学高等実習C	2前	2			8	8		6	共同		
		地球科学学会発表実習A	1通	1		○	8	8		6	共同		
		地球科学学会発表実習B	2通	1		○	8	8		6	共同		
		小計(19科目)	—	0	36	0	—	8	8	0	6	0	
化学	無機固体化学特論A	1・2後	1	○		1							
	無機固体化学特論B	1・2後	1	○					1		隔年		
	量子化学特論A	1・2前	1	○		1					隔年		
	量子化学特論B	1・2前	1	○					1		隔年		
	化学反応動力学	1・2後	1	○		1					隔年		
	固体物性特論	1・2後	2	○		1							
	電子物性化学特論	1・2後	2	○			1				隔年		
	バイオ分析化学特論A	1・2後	1	○			1				隔年		
	バイオ分析化学特論B	1・2後	1	○			1				隔年		
	有機分析化学特論A	1・2前	1	○			2		1		集中 オムニバス		
	有機分析化学特論B	1・2前	1	○			2				集中 オムニバス		
	有機化学特論A	1・2前	1	○			1				隔年		
	有機化学特論B	1・2前	1	○			1				隔年		
	有機化学特論C	1・2後	1	○			1				隔年		
	有機化学特論D	1・2後	1	○					1		隔年		
	生体エネルギー学特論	1・2後	2	○			1				隔年		
	核酸化学特論	1・2前	2	○			1				隔年		
	生体分子科学特論	1・2前	2	○		1							
	環境化学特論	1・2前	2	○		1							
	有害物質動態論	1・2後	2	○			1				隔年		
小計(20科目)	—	0	27	0	—	5	9	0	3	0			
生物学	植物細胞機能構造学	1・2前	2	○					1		隔年		
	植物機能生理学	1・2前	2	○		1					隔年		
	発生機構学	1・2前	2	○			1				隔年		
	進化形態学	1・2後	2	○		1			1		隔年 オムニバス		
	分子機能生物学	1・2後	2	○			1				隔年		
	水域生態学	1・2通	2	○		1					隔年・集中		
	進化生態学	1・2通	2	○			1				隔年・集中		
	環境分子毒性学	1・2後	2	○		1					隔年		
	水圏微生物学	1・2後	2	○			1				隔年		
	生物情報学	1・2後	2	○					1		隔年		
	生物学課題実験A	1通	2			4	4		4		共同		
	生物学課題実験B	2通	2			4	4		4		共同		
小計(12科目)	—	0	24	0	—	4	4	0	4	0			
合計(84科目)			—	7	138	0	—	75	72	10	31	0	兼13
学位又は称号	修士(理学)			学位又は学科の分野			理学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
下記の要件を満たす30単位以上を修得し、学位論文審査及び最終試験に合格すること。 (1)専攻共通科目7単位を修得している。 (2)プログラム共通科目12単位以上を修得している。 (3)専攻する分野の専門科目6単位以上を修得している。 (注)理工学研究科の他のプログラム、または他の研究科の授業科目の修得単位を修了要件に加えることができる。							1学年の学期区分			2学期			
							1学期の授業期間			15週			
							1時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

（理工学研究科 理工学専攻博士前期課程 アジア防災学特別プログラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	研究倫理特論	1通	1			○			7	2					共同 共同 共同 集中 共同 共同
	科学・技術英語	1・2通	1			○			6	5	2				
	アカデミックプレゼンテーション	1・2	1					○	75	72	10	31			
	修士特別研究1	1通	2					○	75	72	10	31			
	修士特別研究2	2通	2					○	75	72	10	31			
	小計（5科目）	—	7	0	0	—	—	—	75	72	10	31			
専門科目	防災・減災工学	1前		2		○			2			1		共同 ※実験・実習・共同 ※演習 オムニバス ※演習, オムニバス ※演習, オムニバス ※演習, オムニバス ※演習 オムニバス ※演習 隔年（奇数年） 隔年（奇数年） 隔年（奇数年） 共同 共同 集中	
	社会基盤デザイン原理	1後		2		○			1	1					
	実践アセットマネジメント	1前		2		○				1					
	固体数値シミュレーション	1後		2		○			1		1				
	環境動態シミュレーション	1後		2		○			1	1					
	新エネルギーと都市デザイン	1後		2		○			1						
	生物多様性と人間活動	1前		2		○			1	1					
	行動科学論	1前		2		○				1					
	システム工学論	1前		2		○			1			1			
	地域マネジメント論	1前		2		○			1			1			
	公共ガバナンス論	1後		2		○				1					
	燃焼工学	1・2後		2		○			1						
	材料強度学	1・2前		2		○			1						
	現代制御理論	1・2後		2		○			1						
	分散処理システム特論	1前		2		○			1	1					
	インターンシップ	1・2		1				○	5	3	1	1			
アジア防災学セミナーA	1通	4					○	6	1						
アジア防災学セミナーB	2通	4					○	6	1						
アジア防災学特別実験・実習	2通	2					○	6	1						
	小計（19科目）	—	10	31	0	—	—	—	17	10	2	4	0		
合計（24科目）			—	17	31	0	—	—	75	72	10	31	0		
学位又は称号	修士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
下記の要件を満たす30単位以上を修得し、学位論文審査及び最終試験に合格すること。 (1) 専攻共通科目7単位を修得している。 (2) 専門科目23単位以上を修得している。 (注) 理工学研究科の他のプログラム、または他の研究科の授業科目の修得単位を修了要件に加えることができる。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
(理工学研究科 理工学専攻博士前期課程 地域エンジニア養成プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	研究倫理特論	1通	1			○			7	2					共同 共同 共同 集中 共同 共同
	科学・技術英語	1・2通	1			○			6	5	2				
	アカデミックプレゼンテーション	1・2	1					○	75	72	10	31			
	修士特別研究1	1通	2					○	75	72	10	31			
	修士特別研究2	2通	2					○	75	72	10	31			
	小計（5科目）	—	7	0	0	—	—	—	75	72	10	31	0		
産業基盤・社会基盤共通科目	データサイエンス概論	1前	1			○			3	1		1		兼6 オムニバス 共同 集中 オムニバス 兼3 オムニバス 兼1 兼1 兼1	
	SDGs 概論	1前	1			○			2						
	インターンシップ	1・2	1					○	5	3	1	1			
	安全衛生管理概論	1前	1			○			5	1	1				
	化学物質管理の基礎知識	1・2前	1			○			2						
	リーダーシップの理論と実践	1後	1			○									
	プロジェクトマネジメント概論	1前	1			○									
	MOT特論	2前	1			○									
	応用数学特論1 A	1前	2			○				1					
	応用数学特論1 B	1前	2			○				1					
	応用数学特論2 A	1後	2			○				1					
応用数学特論2 B	1後	2			○					1					
小計（12科目）	—	0	16	0	—	—	—	17	8	3	2	0	兼10		
基礎科目	センシングと応用	1前	2			○			15	8	1	2		オムニバス 兼1 オムニバス 共同 集中 共同 集中	
	地域産業工学概論	2前	2				○		11	1					
	工場見学1	1後	1				○		10	2					
	工場見学2	2後	1				○		10	2					
	小計（4科目）	—	6	0	0	—	—	—	22	8	1	2	0		兼1
自己デザイン科目	信頼性工学概論	1・2前	2			○			1					兼1	
	安全工学概論	1・2後	2			○									
	自動制御概論	1・2前		2		○			1						
	船舶海洋工学概論	1・2後	2			○			1						
	小計（4科目）	—	4	4	0	—	—	—	3	0	0	0	0		兼1
実践科目	地域連携プロジェクト研究1	1後	2				○		10	2				共同 共同 集中	
	地域連携プロジェクト研究2	2後	2				○		10	2					
	地域産業インターンシップ	1前	2					○	1						
	小計（3科目）	—	6	0	0	—	—	—	10	2	0	0	0		
合計（28科目）		—	23	20	0	—	—	—	75	72	10	31	0	兼11	
学位又は称号	修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
下記の要件を満たす30単位以上を修得し、特定の課題についての研究の成果又は学位論文審査及び最終試験に合格すること。 (1) 専攻共通科目7単位を修得している。 (2) 産業基盤・社会基盤共通科目2単位以上を修得している。 (3) 専門科目16単位以上を修得している。 (注) 理工学研究科の他のプログラム、または他の研究科の授業科目の修得単位を修了要件に加えることができる。								1学年の学期区分		2学期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

教育課程等の概要														
（理工学研究科 理工学専攻博士後期課程）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻共通科目	ファンダメンタル・アカデミックスキル	1		1		○			1					集中
	アドバンスド・アカデミックスキル	1・2・3		1		○			1					集中
	キャリアパス・ディベロップメント	1・2・3		1		○			1					集中
	学外高等特別演習	1・2・3		1		○			2					共同
	学外高等特別研修	1・2・3		1		○			2					共同
	国際交流研究	1・2・3		1		○			2					共同
	リサーチ・インターンシップ	1・2・3		1		○			1					集中
小計（7科目）		—	0	7	0	—			6	0	0	0	0	
科目専門	博士特別研究	1～3	9			○			72	62				共同
	小計（1科目）		9	0	0	—			72	62	0	0	0	
合計（8科目）			9	7	0	—			72	62	0	0	0	
学位又は称号	博士（理学）、博士（工学）、博士（数理情報学）		学位又は学科の分野			理学関係・工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
1. 専門科目必修9単位、専攻共通科目3単位以上、合計12単位以上を修得していること。 2. 学位論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要															
(農学研究科 食料生産学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	英語プレゼンテーション	1後	2			○									兼1 兼1 オムニバス 集中 集中 集中 兼1 集中
	技術者・研究者倫理	1前	1			○									
	農学最先端研究	1後	2			○			2	3	1	1			
	農業研究開発・産業創成特別講義	1後	1			○			1						
	太陽光利用型植物工場セミナー	1・2		1		○			1						
	サマーセミナー	1・2		2		○			1						
	国際農林水産学セミナー	1・2後		1		○			1						
	特別講義	1・2前		1		○									
小計(8科目)	-		6	5	0	-			6	3	1	1	0	兼3	
専攻共通科目	インターンシップI	1~2		1				○	13	16		4			集中
	作物生産生理学特論	1前		1		○			1						オムニバス
	植物工場特論	1前		1		○			3	4		2			
	農業経営学特論	1前		1		○				1					
	知的食料生産学特論	1前		1		○			1						集中 オムニバス
	インターンシップII	1~2		1				○	13	16		4			
	水圏生産学特論	1前		1		○			1	3					
	外書講読	1後		1		○			13	16			4		
	食料生産学特別演習	1~2		4				○	13	16			4		集中
食料生産学特別実験・実習	1~2		4				○	13	16			4		集中	
小計(10科目)	-		0	16	0	-			13	16	0	4	0		
農業生産学コース	分子生物資源学特論	1後		1		○			1						オムニバス
	果樹学特論	1後		1		○				1					
	蔬菜花卉園芸学特論	1前		1		○			1						
	動物飼養学特論	1後		1		○			1						
	植物病理学特論	1前		1		○				1					
	昆虫学特論	1後		1		○			1	1					
	土壌管理学特論	1前		1		○			1						
	農業生産学研究	2前		2		○			6	4		2			
	農業生産学演習	2通		4				○	6	4			2		
	農業生産学実験・実習	2通		4				○	6	4			2		
小計(10科目)	-		0	17	0	-			6	4	0	2	0		
植物工場システム学コース	環境植物学特論	1前		1		○				1					
	植物環境工学特論	1前		1		○						1			
	作物水分生理学	1後		1		○			1						
	ロボット制御工学	1後		1		○			1						
	流通工学	1前		1		○				1					
	植物生体計測学	1後		1		○			1						
	システムモデリング工学	1後		1		○				1					
	微生物制御特論	1後		1		○						1			
	植物工場システム学特別演習	2通		4				○	3	4			2		
	植物工場システム学特別実験・実習	2通		4				○	3	4			2		
	農業情報工学特論	1前		1		○				1					
小計(11科目)	-		0	17	0	-			3	4	0	2	0		

コース専門科目	食料生産経営学コース	フードシステム論	1後		1		○				1								
		資源経済学特論	1前		1		○				1								
		農業構造政策学特論	1後		1		○				1								
		地域農業発展論	1後		1		○				1								
		農業資源管理論	1後		1		○				1								
		地域農業組織論	1前		1		○												兼1
		海域社会論	1後		1		○				1								
		農山村調査	1後		1		○				1	5							
		食料生産経営学Ⅰ	1前		1		○				1	5							
		食料生産経営学Ⅱ	1後		1		○				1	5							
		ケーススタディ	2		2				○		1	5							
		食料生産経営学演習Ⅰ	2前		1				○		1	5							
		食料生産経営学演習Ⅱ	2前		1				○		1	5							
		食料生産経営学演習Ⅲ	2後		1				○		1	5							
		食料生産経営学演習Ⅳ	2後		1				○		1	5							
		食料生産経営学特別演習Ⅰ	2前		1				○		1	5							
		食料生産経営学特別演習Ⅱ	2後		1				○		1	5							
小計 (17科目)	-	0	18	0			-		1	5	0	0	0				兼1		
コース	水圏生産学コース	水圏生産学演習Ⅰ	2	2			○			2	3								
		水圏生産学実験Ⅰ	2	2					○	2	3								
		水圏生産学演習Ⅱ	2	3					○	2	3								
		水圏生産学実験Ⅱ	2	6						2	3								
		水圏生命科学Ⅰ	1前		1		○				1								
		水圏生命科学Ⅱ	1前		1		○				1								
		水圏環境科学Ⅰ	1後		1		○			1									
		水圏環境科学Ⅱ	1後		1		○				1								
		水圏社会科学	1後		1		○				1								
		養殖技術論	1後		1		○				1								
		小計 (10科目)	-	13	6	0			-		2	3	0	0	0				
コース	知的食料生産科学特別コース	農業情報学特論	1前		1		○			1	1								
		知的食料生産学特別演習	2通		4				○	1									
		知的食料生産学特別実験・実習	2通		4					1									
		分子生物資源学特論	1後		1		○			1									
		植物病理学特論	1前		1		○				1								
		環境植物学特論	1前		1		○				1								
		植物環境学特論	1前		1		○						1						
		作物水分生理学	1後		1		○			1									
		ロボット制御工学	1後		1		○			1									
		流通工学	1前		1		○				1								
		植物生体計測学	1後		1		○			1									
		農業資源管理論	1後		1		○			1									
小計 (12科目)	-	0	18	0			-		1	4	0	0	0						
合計 (78科目)		-	19	97	0			-	32	39	1	9	0				兼4	-	

学位又は称号	修士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
修了要件は農学研究科修士課程に2年以上在学し、指導教員の指示により、研究科の定めた履修方法に基づき、単位30単位以上を修得し、かつ、学位論文又は特定の課題についての研究の成果を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。			1学年の学期区分	4学期
			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分
<p>【全専攻科共通】 研究科共通科目 必修6単位</p>				
<p>【農業生産学コース】 専攻共通科目 必修科目1単位（作物生産生理学特論） 選択必修科目（インターンシップⅠ、植物工場特論、農業経営学特論、知的食料生産学特論）から3単位以上 選択科目から2単位以上 コース専門科目 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から18単位以上 <u>合計30単位以上</u></p>				
<p>【植物工場システム学コース】 専攻共通科目 必修科目1単位（植物工場特論） 選択必修科目（インターンシップⅠ、作物生産生理学特論、農業経営学特論、知的食料生産学特論）から3単位以上 選択科目から2単位以上 コース専門科目 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から18単位以上 <u>合計30単位以上</u></p>				
<p>【食料生産経営学コース】 専攻共通科目 必修科目1単位（農業経営学特論） 選択必修科目（インターンシップⅠ、作物生産生理学特論、植物工場特論、知的食料生産学特論）から3単位以上 選択科目から2単位以上 コース専門科目 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から18単位以上 <u>合計30単位以上</u></p>				
<p>【水圏生産学コース】 専攻共通科目 必修3単位（インターンシップⅠ、水圏生産学特論、知的食料生産学特論） 選択科目から2単位以上 コース専門科目 必修13単位 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から6単位以上 <u>合計30単位以上</u></p>				
<p>【知的食料生産科学特別コース】 専攻共通科目 必修科目1単位（知的食料生産学特論） 選択必修科目（インターンシップⅠ、作物生産生理学特論、植物工場特論、農業経営学特論）から3単位以上 選択科目から2単位以上 コース専門科目 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から18単位以上 <u>合計30単位以上</u></p>				

教育課程等の概要															
(農学研究科 生命機能学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	英語プレゼンテーション	1後	2			○									兼1
	技術者・研究者倫理	1前	1			○									兼1
	農学最先端研究	1後	2			○			2	3	1	1			オムニバス
	農業研究開発・産業創成特別講義	1後	1			○			1						
	太陽光利用型植物工場セミナー	1・2		1		○			1						集中
	サマーセミナー	1・2		2		○			1						集中
	国際農林水産学セミナー特別講義	1・2後		1		○			1						集中
	特別講義	1・2前		1		○									兼1
小計(8科目)	-	-	6	5	0	-	-	-	6	3	1	1	0		兼3
専攻共通科目	生命機能学特別セミナー	1・2	1				○		6	7	1				オムニバス
	生命機能学先端研究	1後	2			○			6	7	1				オムニバス
	生命機能学演習Ⅰ	1通	2				○		6	7	1	4			
	生命機能学演習Ⅱ	2通	2				○		6	7	1	4			
	植物化学調節学	1前		1		○						1			
	食品微生物管理学	1前		1		○				1					
	生物有機化学	1前		1		○			1						
	細胞制御工学	1前		1		○			1						
	産業用酵素と生化学	1前		1		○			1						
	細胞生物学	1後		1		○				1					
	応用分子遺伝学	1後		1		○			1						
	農薬の創製	1後		1		○			1						
	微生物遺伝子制御工学	1後		1		○				1					
	機能性分子作用論	1後		1		○				1					
	生体膜の生化学	1後		1		○				1					
	天然物有機化学	1後		1		○				1					
	生命機能学特別研修	1・2		1		○			6	7	1	4			集中
小計(17科目)	-	-	7	13	0	-	-	-	6	7	1	4	0		
コース専門科目	応用生命化学コース	応用生命化学特別実験Ⅰ	1通	4				○	5	6	1	3			
		応用生命化学特別実験Ⅱ	2通	8				○	5	6	1	3			
		栄養疫学	1前		1		○				1				
		栄養学概論	1前		1		○			1					
		先端生命科学研究方法論Ⅰ	1後		2		○			1					兼4
		機能性食品開発論	1後		1		○			1					
		先端生命科学研究方法論Ⅱ	2後		2		○			1					兼4
	小計(7科目)	-	-	12	7	0	-	-	5	6	1	3	0		兼8
健康機能栄養科学特別コース	栄養学概論	1前		1		○			1						
	機能性食品開発論	1後		1		○			1						
	先端生命科学研究方法論Ⅰ	1後		2		○			1					兼4	
	先端生命科学研究方法論Ⅱ	2後		2		○			1					兼4	
	健康機能栄養科学特別実験Ⅰ	1通		4				○	1	1		1			
	健康機能栄養科学特別実験Ⅱ	2通		4				○	1	1		1			
	栄養疫学	1前			1		○			1					
	インターンシップ	1後・2前			2			○	1	1		1			集中
小計(8科目)	-	-	14	3	0	-	-	2	1	0	1	0		兼8	
合計(40科目)		-	-	39	28	0	-	-	6	7	1	5	0		兼11

学位又は称号	修士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件は農学研究科修士課程に2年以上在学し、指導教員の指示により、研究科の定めた履修方法に基づき、単位30単位以上を修得し、かつ、学位論文又は特定の課題についての研究の成果を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。		1学年の学期区分	4学期
		1学期の授業期間	8週
		1時限の授業時間	90分
【全専攻科共通】 研究科共通科目 必修6単位			
【全コース共通科目】 専攻共通科目 必修7単位			
【応用生命化学コース】 コース専門科目 必修12単位 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目）から5単位以上 合計 30単位以上			
【健康機能栄養科学特別学コース】 コース専門科目 必修14単位 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から3単位以上 合計 30単位以上			

教育課程等の概要															
(農学研究科 生物環境学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	英語プレゼンテーション	1後	2			○									兼1 兼1 オムニバス 集中 集中 集中 兼1 集中
	技術者・研究者倫理	1前	1			○									
	農学最先端研究	1後	2			○			2	3	1	1			
	農業研究開発・産業創成特別講義	1後	1			○			1						
	太陽光利用型植物工場セミナー	1・2		1		○			1						
	サマーセミナー	1・2		2		○			1						
	国際農林水産学セミナー	1・2後		1		○			1						
	特別講義	1・2前		1		○									
小計(8科目)	-		6	5	0				6	3	1	1	0	兼3	
専攻共通科目	森林資源学特論	1		1		○				3					オムニバス
	バイオマス資源学特論	1前		1		○				1					
	地域環境工学特論	1前		1		○			5						オムニバス
	環境保全学特論	1前		1		○			5	1					オムニバス
	水環境再生科学特論	1前		1		○			1						
	小計(5科目)	-		0	5	0				10	5	0	0	0	
森林資源学コース	森林資源学特別演習Ⅰ	1	2					○	2	8		1			オムニバス 集中
	森林資源学特別実験Ⅰ	1通	2					○	2	8		1			
	森林資源学特別演習Ⅱ	2	2					○	2	8		1			
	森林資源学特別実験Ⅱ	2通	6					○	2	8		1			
	木材工学特論(含実習)	1後		1		○			1	1					
	森林教育学特論	1前		1		○				1					
	木質バイオマス変換利用学特論	1前		1		○				1					
	森林修復再生学特論	1前		1		○				1					
	森林生態生理学	1後		1		○				1					
	森林広域計測	1前		1		○				1					
	樹木遺伝子資源論	1前		1		○				1					
	天然物化学	2前		1		○			1						
	研究プレゼンテーションⅠ	2前		1			○		2	8		1			
	森林資源調査	2		2				○	2	8		1			
	林業経済学特論	2後		1		○				1					
小計(15科目)	-		12	12	0				2	8	0	1	0		
バイオマス資源学コース	バイオマス資源学実習Ⅰ	1前	1					○				1			兼1 兼1 隔年 兼1 隔年 オムニバス
	バイオマス資源学実習Ⅱ	1前	2					○				1			
	製紙技術論	1前	1			○									
	製紙概論	1前	1			○			1						
	バイオマス資源学コース特別講義Ⅰ	1通	1			○			1						
	バイオマス資源学コース特別演習Ⅰ	1通	1				○		1	2		1			
	現場見学Ⅰ	1通		1				○		2		1			
	現場見学Ⅱ	2通		1				○		2		1			
	バイオマス資源学コース特別演習Ⅱ	2通	1				○		1	2		1			
	プロジェクト演習	2通	8					○	1	2		1			
	紙加工製品技術論	1後		1		○			1						
	不織布技術発展論	1・2後		1		○									
	知的財産管理論	1・2後		1		○									
	バイオマス資源学コース特別講義Ⅱ	2前		1		○			1						
英語プレゼンテーションⅡ	2通		1		○				1						
製品製造実習	1・2通		4				○	1	1		1				
バイオマス分析化学特論	2前		1		○						1				
バイオマス分析化学演習	2前		1		○						1				
小計(18科目)	-		16	13	0				1	2	0	1	0	兼3	

地域環境工学コース	地域環境整備学特論	1後	1	○		1							
	構造力学特論	2前	1	○		1							
	土質力学特論	1後	1	○		1							
	応用水理学特論	1後	1	○			1						
	土壌物理学特論	1後	1	○			1						
	生物圏水・熱収支論	1後	1	○		1							
	水文気象学特論	1後	1	○			1						
	農村計画学特論	2前	1	○		1							
	地域環境工学特別セミナー	1後	2	○		4	4						
	研究プレゼンテーションⅡ	2通	1		○	4	4						
	インターンシップ	2通	2			4	4						
	地域環境工学演習	2通	4		○	4	4						
	地域環境工学実験Ⅰ	1通	2			4	4						
	地域環境工学実験Ⅱ	2通	4			4	4						
小計 (14科目)	-	0	23	0	-	4	4	0	0	0			
環境保全学コース	生態系管理論	1後	1	○		1							
	環境物質化学	1前	1	○		1							
	水族繁殖生理学	1後	1	○		1							
	海洋生物地球科学	1後	1	○					1				
	応用水圏環境化学	1後	1	○			1						
	応用環境化学	1後	1	○		1	1						
	環境産業技術	1前	1	○		1							
	環境分子毒性学	1後	1	○			1						
	里山生態学	1後	1	○			1						
	環境リスク学	1後	1	○		1							
	研究プレゼンテーションⅢ	1・2	1		○	6	4			1			
	インターンシップ	2	2			6	4			1			
	環境保全学特別演習Ⅰ	1通	2		○	6	4			1			
	環境保全学特別実験Ⅰ	1通	4			6	4			1			
環境保全学特別演習Ⅱ	2通	2		○	6	4			1				
環境保全学特別実験Ⅱ	2通	4			6	4			1				
小計 (16科目)	-	0	25	0	-	6	4	0	1	0			
水環境再生科学特別コース	環境物質化学工学	1前	1	○		1							
	先端水処理科学	1後	1	○		1							
	汚染物質動態解析特論	1後	1	○		2							
	環境遺伝子工学	1後	1	○		1							
	地域環境整備学特論	1後	1	○		1							
	研究プレゼンテーションⅣ	2後	1		○	2							
	水環境再生科学演習Ⅰ	1前	1		○	2	1						
	水環境再生科学実験Ⅰ	1前	2			2	1						
	水環境再生科学演習Ⅱ	2前	2		○	2	1						
	水環境再生科学実験Ⅱ	2通	4			2	1						
	水文気象学特論	1後	1	○			1						
	環境物質化学	1前	1	○		1							
	海洋生物地球科学	1後	1	○					1				
	応用水圏環境化学	1後	1	○			1						
応用環境化学	1後	1	○		1	1							
海外インターンシップ	1・2	2		○	3								
海洋生物地球科学	1後	1	○						1				
小計 (17科目)	-	15	8	0	-	5	7	0	1	0			
合計 (93科目)	-	49	91	0	-	14	18	0	4	0	兼6		

学位又は称号	修士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件は農学研究科修士課程に2年以上在学し、指導教員の指示により、研究科の定めた履修方法に基づき、単位30単位以上を修得し、かつ、学位論文又は特定の課題についての研究の成果を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。	1 学年の学期区分	4 学期	
	1 学期の授業期間	8 週	
	1 時限の授業時間	90 分	
<p>【全専攻科共通】 研究科共通科目 必修6単位</p> <p>【森林資源学コース】 専攻共通科目 必修1単位(森林資源学特論) 選択科目から3単位 コース専門科目 必修科目12単位 選択科目(研究科共通科目、専攻共通科目を含む)から8単位以上 合計30単位以上</p> <p>【バイオマス資源学コース】 専攻共通科目 必修1単位(バイオマス資源学特論) コース専門科目 必修科目16単位 選択科目(研究科共通科目、専攻共通科目を含む)から7単位以上 合計30単位以上</p> <p>【地域環境工学コース】 専攻共通科目 必修1単位(地域環境工学特論) 選択科目から3単位 コース専門科目 選択科目(研究科共通科目、専攻共通科目を含む)から20単位以上 合計30単位以上</p> <p>【環境保全学コース】 専攻共通科目 必修1単位(環境保全学特論) 選択科目から3単位 コース専門科目 選択科目(研究科共通科目、専攻共通科目を含む)から20単位以上 合計30単位以上</p> <p>【水環境再生科学特別コース】 専攻共通科目 必修2単位(水環境再生科学特論、環境保全学特論) 選択科目から2単位 コース専門科目 必修科目15単位 選択科目(研究科共通科目、専攻共通科目を含む)から5単位以上 合計30単位以上</p>			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域レジリエンス学環)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	SDGs概論	<p>(概要) VUCA時代における地域のレジリエンスを向上させることに貢献できる人材に求められる基本的な素養として、グローバル目標であるSDGsの基本理念について学ぶ。SDGsが国連で策定されるに至った世界の現状、世界を持続的かつレジリエントに方向づけるための自己の変容と世界の変容について理解し、ポストSDGsを見据えた未来社会のあり方について多角的に考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 鈴木 静/1回) 第5回 G5、G10：ジェンダーと平等</p> <p>(2 西村 勝志/1回) 第1回 G16、G17：ガイダンス、いまなぜSDGs</p> <p>(7 松村 暢彦/1回) 第7回 G11：DXによる自然災害対策とレジリエントな都市づくり</p> <p>(13 小林 修/1回) 第4回 G1、G2、G4：開発途上国における飢餓/貧困/教育問題</p> <p>(29 佐藤 哲/1回) 第2回 G6、G14、G15：SDGsの全体像：SDGsの全体像、持続可能な未来とDX、人と自然の共存に向けた取り組み（資源問題含む）</p> <p>(35 中原 真也/1回) 第6回 G7、G9、G13：SDGsとイノベーション創出、再生可能エネルギー（水素社会）</p> <p>(48 前田 眞/1回) 第8回 G3、G8：SDGsとWell-being（人間の福利）、働き方、生き方改革</p> <p>(50 竹下 浩子/1回) 第3回 G4、G12：つくる責任・つかう責任</p>	オムニバス方式
	レジリエンス学概論	<p>(概要) レジリエンスとは晒される危機に対して、打たれ強く、しなやかに適応し、早期に回復できる力である、地域社会の様々な領域に内在する様々なリスクについて学び、レジリエンスを獲得するためのアプローチについて学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 鈴木 静/1回) 第6回 法律・経済分野におけるレジリエンス</p> <p>(3 今村 健志/1回) 第5回 医学分野におけるレジリエンス</p> <p>(6 森脇 亮/1回) 第1回 レジリエンスの定義と社会インフラ分野におけるレジリエンス</p> <p>(7 松村 暢彦/1回) 第3回 地域コミュニティのレジリエンス</p> <p>(10 平野 幹/1回) 第8回 情報化社会におけるレジリエンスと数値情報</p> <p>(12 羽藤 堅治/1回) 第4回 農業分野におけるレジリエンス</p> <p>(13 小林 修/1回) 第2回 レジリエンスとSDGs</p> <p>(19 富田 英司/1回) 第7回 教育・心理学分野におけるレジリエンス</p>	オムニバス方式

基盤科目	データサイエンス概論	<p>(概要) 学術研究や地域産業におけるデータサイエンスを活用している事例を学習し、データに関する基本的な知識とスキルを身につけるとともに、情報社会における新しい付加価値、サービスの創出に必要な視点および方法論について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(9 二宮 崇/2回) 第6回 データ活用概論 (AI1) : AI技術の基礎 第7回 データ活用概論 (AI2) : AI技術の活用</p> <p>(10 平野 幹/2回) 第1回 導入: 研究や産業におけるデータサイエンス利活用事例 第8回 まとめ: 研究や産業におけるデータサイエンス利活用の展望</p> <p>(47 松浦 真也/2回) 第2回 データ活用概論 (DS1) : データ分析と可視化 第3回 データ活用概論 (DS2) : データ分析の数理</p> <p>(59 甲斐 博/1回) 第5回 データ活用概論 (DE2) : データとITセキュリティ</p> <p>(69 王 森崎/1回) 第4回 データ活用概論 (DE1) : データとIoT</p>	オムニバス方式
	デジタルエスノグラフィー実習	<p>(概要) エスノグラフィーは特定の文化や地域などに赴き、インタビューや観察などを主に用いて質的に対象を理解する研究手法のことを指している。デジタルエスノグラフィーは、様々な理由で現場に足を運ぶことが難しい場合、あるいはバーチャルな世界のコミュニティを理解しようとする場合には、様々なICTツールを活用して行なわれるエスノグラフィーである。この授業では様々なアプリケーションやデバイスを活用した効果的なデータの収集と活用を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19 富田 英司/1回) 第1回 授業概要と授業で利用するツールの紹介</p> <p>(62 梅田 崇広/3回) 第2回 語りという分析の観点 第3回 リモートインタビューのデータ収集 第4回 リモートインタビューの分析と活用</p> <p>(70 坪田 康/4回) 第5回 バーチャルコミュニティを対象にした録音と録画 第6回 バーチャルコミュニティを対象にしたログの収集 第7回 録音、録画、ログ収集の自動化 第8回 データの保存と分析</p>	オムニバス方式
	サーベイメソッド・プログラム評価法	<p>(概要) 地域の実践等を理解する手法の1つとして調査法、特にオンラインツールを活用したデータ収集と分析の方法を学ぶ。加えて、近年、プログラム評価の手法として重要性を増しつつある参加型のプログラム評価について、MSCを中心にその考え方や適用事例、そして実践方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19 富田 英司/2回) 第1回 オンラインサーベイの手法 第2回 オンラインサーベイの体験</p> <p>(73 田中 博/6回) 第3回 参加型プログラム評価概論 第4回 MSCの概略・目的・特徴 第5回 MSCの事例紹介 第6回 MSCの各ステップの体験①: 重大な変化を集める 第7回 MSCの各ステップの体験②: 最も重大な変化を選ぶ 第8回 まとめとふりかえり</p>	オムニバス方式
	プロジェクトマネジメント概論	<p>(概要) 現在企業ではイノベーション創出のため、様々な領域の人たちが集まり、プロジェクトを立ち上げている。プロジェクトは、携わるメンバーの技量やマネジメント力、人間関係など様々な要因によって良好になったり低迷したりと変化する。プロジェクトは成り行き任せでなく、継続的にコントロールすることが求められる。本授業では、プロジェクトの成功に必要な基本的なプロジェクトマネジメントの知識体系とプロセスを習得することを目的とする。</p>	

実践科目	地域協働インターンシップ I	<p>(概要) 地域課題の解決や地域活性化、産業活性化に共創的に取り組んでいるステークホルダーとともに活動を行うことによって、課題解決のために必要な協調性、リーダーシップ力などを高める。インターンシップ先については地域協働センターと協力して選定する。</p>	共同
	地域協働インターンシップ II	<p>(概要) 修了後に活躍したいと考える地方自治体、NPO、民間企業等での実務体験を通して、課題解決のために必要な知識・技術、協働力、実践力、思考力などを高める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>1. 事前ガイダンス 2. 就業体験 3. 成果発表 (プレゼンテーションと成果レポートの提出)</p> <p>(3 今村 健志/3回) 地域協働センター中予に関する活動</p> <p>(7 松村 暢彦/2回) 地域協働センター南予に関する活動</p> <p>(12 羽藤 堅治/3回) 地域協働センター西条 (東予地域) に関する活動</p>	オムニバス方式
	地域レジリエンスPBL I	<p>(概要) 愛媛大学地域協働センター (東予・中予・南予) を愛媛大学と地域とのインターフェースとして、地域のレジリエンスの課題と可能性を掘り起こすことを目的に、対象地域に出向き、地域の現状を自らの目で見て、地域の方や関係者の声を聴き、地域課題を現地にて直接かつ具体的に学ばせる。同時に地域の資源や魅力を発掘し、そのポテンシャルを探らせる。それらのプロセスを通して、自身の地域課題プロジェクトのテーマを設定させ、そのアプローチ方法を複眼的に学習させる。</p> <p>(1 鈴木 静) 社会保障法学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こすための着眼点について教育研究指導を行う。</p> <p>(3 今村 健志) 愛媛県中予地域の地域レジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルについて情報提供と教育研究指導を行う。また、医学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こすための着眼点について教育研究指導を行う。</p> <p>(6 森脇 亮) 社会基盤学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こすための着眼点について教育研究指導を行う。</p> <p>(7 松村 暢彦) 愛媛県南予地域の地域レジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルについて情報提供と教育研究指導を行う。また、都市地域計画学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こすための着眼点について教育研究指導を行う。</p> <p>(10 平野 幹) 数理・データサイエンス・AIを活用した情報化社会のあり方という見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こすための着眼点について教育研究指導を行う。</p> <p>(12 羽藤 堅治) 愛媛県東予地域の地域レジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルについて情報提供と教育研究指導を行う。また、農業環境・情報工学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こすための着眼点について教育研究指導を行う。</p> <p>(13 小林 修) 地域課題プロジェクトを実施する際に必要な、フィールドワーク・リスクマネジメントに関する指導を行う。また、グローバル課題であるSDGsを地域の課題に落とし込み、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こすための着眼点について教育研究指導を行う。</p> <p>(19 富田 英司) 教育心理学的見地から、履修生が取り組む地域課題プロジェクトに活用することのできる、プログラム評価やデジタルエスノグラフィー、子どもの参画、居場所づくりや学習支援等に関連した側面から、地域ニーズのアセスメントやビジョンやゴールの策定に関する教育研究指導を行う。</p> <p>(23 羽鳥剛史) 土木計画学、公共ガバナンス的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こすための着眼点について教育研究指導を行う。</p> <p>(28 白柳洋俊) 交通工学、景観工学的見地から、センシング技術を用いながら、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こすための着眼点について教育研究指導を行う。</p>	共同

実践科目	<p>地域レジリエンスPBL II</p> <p>(概要) 対象地域に継続的に通い、自身が設定した課題を掘り下げる。また、課題解決のために領域横断的に視野を広げるため、複数の研究科から構成される教員によってコンサルテーションを受け、地域の課題解決とポテンシャルを高める方策を立案する。</p> <p>(1 鈴木 静) 社会保障法学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、課題解決につながる方策についてコンサルテーションを行う。</p> <p>(3 今村 健志) 医学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、課題解決につながる方策についてコンサルテーションを行う。</p> <p>(6 森脇 亮) 社会基盤学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、課題解決につながる方策についてコンサルテーションを行う。</p> <p>(7 松村 暢彦) 都市地域計画学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、課題解決につながる方策についてコンサルテーションを行う。</p> <p>(10 平野 幹) 数理・データサイエンス・AIを活用した情報化社会のあり方という見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、課題解決につながる方策についてコンサルテーションを行う。</p> <p>(12 羽藤 堅治) 農業環境・情報工学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、課題解決につながる方策についてコンサルテーションを行う。</p> <p>(13 小林 修) グローバル課題であるSDGsを地域の課題に落とし込み、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、課題解決につながる方策についてコンサルテーションを行う。</p> <p>(19 富田 英司) 教育心理学的見地から、履修生が取り組む地域課題プロジェクトについて、プログラム評価やデジタルエスノグラフィー、子どもの参画、居場所づくりや学習支援等に関連した側面から、効果的な実装のためのコンサルテーションをおこなう。</p> <p>(23 羽島剛史) 土木計画学、公共ガバナンスの見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、課題解決につながる方策についてコンサルテーションを行う。</p> <p>(28 白柳洋俊) 交通工学、景観工学的見地から、センシング技術を用いながら、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、課題解決につながる方策についてコンサルテーションを行う。</p>	共同
------	--	----

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実践科目</p>	<p>地域レジリエンスPBLⅢ</p>	<p>(概要) ステークホルダーとともにレジリエンスに関する地域課題の解決に取り組み、社会とのエンゲージメントの重要性を理解するとともに、社会への発信、社会実装への方法を修得する。</p> <p>(1 鈴木 静) 社会保障法学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを、その解決策について社会への発信、社会実装への方法に関する教育研究指導を行う。</p> <p>(3 今村 健志) 医学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、その解決策について社会への発信、社会実装への方法に関する教育研究指導を行う。</p> <p>(6 森脇 亮) 社会基盤学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、その解決策について社会への発信、社会実装への方法に関する教育研究指導を行う。</p> <p>(7 松村 暢彦) 都市地域計画学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、その解決策について社会への発信、社会実装への方法に関する教育研究指導を行う。</p> <p>(10 平野 幹) 教理・データサイエンス・AIを活用した情報化社会のあり方という見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、その解決策について社会への発信、社会実装への方法に関する教育研究指導を行う。</p> <p>(12 羽藤 堅治) 農業環境・情報工学的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、その解決策について社会への発信、社会実装への方法に関する教育研究指導を行う。</p> <p>(13 小林 修) グローバル課題であるSDGsを地域の課題に落とし込み、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、その解決策について社会への発信、社会実装への方法に関する教育研究指導を行う。</p> <p>(19 富田 英司) 教育心理学的見地から、履修生が取り組む地域課題プロジェクトについて、プログラム評価やデジタルエスノグラフィー、子どもの参画、居場所づくりや学習支援等に関連した側面から実装のための支援をおこなう。</p> <p>(23 羽鳥剛史) 土木計画学、公共ガバナンス的見地から、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、その解決策について社会への発信、社会実装への方法に関する教育研究指導を行う。</p> <p>(28 白柳洋俊) 交通工学、景観工学的見地から、センシング技術を用いながら、愛媛県における地域のレジリエンスに関わる諸課題とポテンシャルを掘り起こし、その解決策について社会への発信、社会実装への方法に関する教育研究指導を行う。</p>	<p>共同</p>
---	---------------------	---	-----------

専 門 科 目 （ 地 域 理 解 ）	人類学特論	(概要) 文化人類学の特徴とフィールドワークの技法を学ぶことを通して、地域の産業や歴史、実践を住民の視点から読み解き、地域への働きかけをしていくための認識上の基盤を構築することを目的としている。そのために本授業では、フィールドワークの事例や技法を具体的に即して学ぶ。	
	環境情報マネジメント	(概要) 環境マネジメントに関する専門的な知識、技術を活かして、持続可能な社会の構築に関する特定テーマについて既往の研究や現地調査等を通じてデータを収集、分析を通じて課題を発見する力を育成する。	
	環境経済学	(概要) 地域の環境政策をデザインする際に、環境経済学では、経済の観点から選択する考え方をとる。環境政策の費用や効果の中には、環境政策を実施することで金銭として支払われる費用や効果以外に、金銭として支払われない費用や効果もある。環境経済学では、このような金銭評価されていない環境価値の経済評価も行い、総合的な経済評価を行う。	
	自然社会環境論	(概要) 地域社会と自然の相互作用に複雑性を理解し、対応できることが必要である。持続可能な地域社会の実現のための解決困難な課題に対処するための理論と方法を習得し、一人の市民として、またコミュニティの将来のリーダーとして、備えるべき基礎知識と姿勢を身につけることが期待される。	
	コミュニティ心理学特論	(概要) コミュニティを理解し、支援するための心理学として、この授業では特に理論的背景として、生態学的システム理論、ポジティブ心理学、家族心理学等を学ぶ。さらにこれらを活用して、災害等の強いストレス下でも強さを発揮する人や組織のあり方や支援のための基本的考え方、そして、災害時の支援事例について学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (19 富田 英司／1回) 第1回 コミュニティ心理学の主要理論と現在の動き (20 相模 健人／2回) 第4回 システム理論による人間理解 第5回 ソリューションフォーカスアプローチによる介入 (72 泉谷 道子／2回) 第2回 ポジティブ心理学の理論 第3回 ポジティブ心理学による介入 (74 野満 育朗／3回) 第6回 マインドフルネス 第7回 災害時の心理的支援：緊急介入 第8回 災害時の心理的支援：フォローアップ	オムニバス方式
	公共ガバナンス論 I	(概要) 社会基盤整備に関わるガバナンスの概念や課題について、政治学や経済学の知見を踏まえつつ説明するとともに、民主主義論、行政評価論、建設マネジメント論等の関連テーマについて総合的に学ぶ。	
	公共ガバナンス論 II	(概要) 社会基盤整備に関わるガバナンスの概念や課題のうち、災害危機管理論、市民参加と合意形成論について学ぶとともに、国内外のスマートシティの取り組みをケーススタディとして取り上げ、社会的な包摂性（インクルージョン）」の観点から、多様な関係主体の協働によりスマートシティ政策を進めていくためのガバナンスのあり方について学ぶ。	
	地域マネジメント論 I	(概要) 一体的な地域の中で多様なまちづくりを組み立てて、それらの関係性をデザインし、地域を統合的かつ持続的に運営していく地域マネジメントの視点が必要とされている。そこで、都市計画、防災計画、土木工学、福祉学、環境学、社会学等の多様な視点から地域をマネジメントする意義を明らかにし、地域レジリエンスを高めるための理論を学ぶ。	
	地域マネジメント論 II	(概要) 災害からの復興、防災、商店街の活性化、環境負荷の低減、多世代の交流活性化などの多様な地域マネジメント事例を紹介し、継続的に地域マネジメントするための地域のステークホルダーの関わり方や組織化等の観点から地域レジリエンスを高めるための理論を学ぶ。	
	海域社会論	(概要) 漁村地域（地域漁業）における問題に焦点を当て、特に水産業・漁村における沿岸域を含めた新しい持続可能性、経済効率性、ビジネスについて社会科学の側面から学ぶ。	
マイクロ経済学	(概要) 経済問題および地域の諸課題をマイクロ経済学的視点で捉えることで、現象の本質を理解し、経済学的な思考力を養うことを目的とする。本授業では、マイクロ経済学の基礎理論を学ぶ。具体的には、個人や企業はどのような行動を取るかを考え、「マイクロ経済学的」な人間の行動理論をモデル化する。すなわち、個人および企業の選択を最適化行動としてとらえ、需要関数、供給関数を導出する。そして、主体間の行動の結果、市場ではどのような状態が達成されるのかを「価格」というキーワードを通して明らかにする。さらに、価格メカニズムによる市場経済制度がわれわれの社会において支持される理由について考えていく。		
景観まちづくり	(概要) 視覚的、心理学的に魅力のあるデザインの理論を学び、それにもとづく景観まちづくりの在り方を学ぶ。講義と実技課題を通じて、まちづくりを計画・設計するために必要となるデザイン能力の基礎を身につける。		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">専門科目（ICT・データ活用）</p>	<p>センシングと応用</p>	<p>(概要) 工学において、産業製品の物理/化学的性質、あるいはそれらの時間および空間的变化を何らかの手段を用いて計測（センシング）し、数値化・量子化することが行われている。また、自然科学の分野では地球環境や生態などを、社会科学においては人間の行動や経済活動などをセンシングし、持続可能な社会を構築するための解析や分析が行われている。本講義では、センシング技術やそこから得られるデータの応用に関する様々なトピックを扱う。ここでは、環境センシング、物理センシング、化学センシング、都市・社会センシングの4つのカテゴリから、センシングとその応用に関する最新研究をオムニバス形式で講義する。また、研究現場等の視察を行い、情報の収集ならびに先端研究を体験するとともに、センシングを自身の修士研究に応用することを模索する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 森脇 亮、51 三宅 洋/2回) 第10回 環境センシング1 (生態系・気候) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(22 片岡 智哉、34 日向 博文/2回) 第11回 環境センシング2 (海洋・汚染) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(28 白柳 洋俊、53 倉内 慎也/2回) 第14回 都市・社会センシング2 (社会システム) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(32 中畑 和之/1回) 第1回 ガイダンス</p> <p>(32 中畑 和之、41 斎藤 全/2回) 第3回 物理センシング2 (光、音) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(33 岡村 未対、54 河合 慶有/2回) 第12回 環境センシング3 (インフラ構造物) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(35 中原 真也、57 山口 修平/2回) 第8回 化学センシング2 (反応・燃焼) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(37 黄木 景二、63 水上 孝一/2回) 第2回 物理センシング1 (ひずみ、変形) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(38 野村 信福、46 神野 雅文/2回) 第6回 物理センシング5 (プラズマ) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(39 吉井 稔雄、67 坪田 隆宏/2回) 第13回 都市・社会センシング1 (交通システム) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(40 板垣 吉晃、58 佐々木 秀顕/2回) 第9回 化学センシング3 (電気化学) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(42 井堀 春生、45 都築 伸二/2回) 第4回 物理センシング3 (電波、電気 (物性)) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(43 青野 宏通、44 松口 正信/2回) 第7回 化学センシング1 (濃度・湿度) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p> <p>(55 岩本 幸治、56 向笠 忍/2回) 第5回 物理センシング4 (流体、熱) 第15回 センシングの修士研究への応用 (プレゼンテーションとディスカッション)</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>ICT/データサイエンス/AI特論</p>	<p>(概要) 本講義では、次世代の情報化社会で必要とされるICT (情報通信技術)・DS (データサイエンス)・AI (人工知能) 技術について学ぶ。講義前半では、Pythonコードを基に深層学習について学び、さらに深層学習ツールであるPyTorchを用いて、実際に動作する深層学習器を作成することで、深層学習の技術を学ぶ。講義後半では、経済学等で扱う時系列データ分析技術、特に、AR過程、MA過程、ARMA過程、単位根過程について学ぶ。時系列データ分析は株価などの周期性のある時系列データを扱う技術であり、社会の動向を予測するなどデータサイエンスにおける必須の技術である。</p>	
	<p>知的食料生産科学特論</p>	<p>(概要) 農業分野のスマート化について、ビッグデータ、人工知能、IoT、ロボット化等についての基礎について学ぶ。具体的には食料生産の現場における生態情報や環境情報の計測、データの解析方法、モデル化さらに植物工場などの制御の考え方などの基礎について学ぶ。</p>	

専 門 科 目 （ I C T ・ デ ー タ 利 活 用 ）	災害情報学	<p>（概要）ICTを活用した災害情報のセンシング、収集、情報提供、記録・記憶のあり方、地域コミュニティの防災力を向上させる手法について、人間の判断とAIの融合やアプリの多面的な活用を併用した方法論について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（6 森脇 亮／1回） 第8回 Webアプリケーションによる災害情報プラットフォーム</p> <p>（9 二宮 崇／1回） 第2回 深層学習を用いた自然言語処理技術と災害情報の収集</p> <p>（22 片岡 智哉／1回） 第1回 災害と情報</p> <p>（34 日向 博文／1回） 第7回 津波のリモートセンシングとシミュレーション</p> <p>（36 安原 英明／1回） 第6回 地すべり早期探知のリモートセンシング技術</p> <p>（49 石黒 聡士／1回） 第5回 GISを用いた土砂災害のリスク管理</p> <p>（64 木下 浩二／1回） 第4回 画像処理技術の災害への応用</p> <p>（68 一色 正晴／1回） 第3回 津波避難体験シミュレータとVR</p>	オムニバス方式
	バイオインフォマティクス特論	<p>（概要）オミクス解析による疾患解析からヒトゲノム解析における機械学習応用まで遺伝統計学の基礎を学習するとともに、医学生物学研究における画像解析から機械学習応用までバイオイメージング技術を理解し、バイオインフォマティクスを統合的に学習する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（3 今村 健志／2回） 第1回 分子生物学の基礎 1 第2回 分子生物学の基礎 2</p> <p>（65 齋藤 卓／6回） 第3回 バイオインフォマティクスのための統計学と計算科学（講義と実習） 第4回 配列解析 1（講義と実習） 第5回 配列解析 2（講義と実習） 第6回 集団遺伝学 1（講義と実習） 第7回 集団遺伝学 2（講義と実習） 第8回 バイオ画像解析（講義と実習）</p>	オムニバス方式

専門科目 (レジリエンス向上)	防災・減災工学	<p>(概要) 土砂災害、洪水、地震による地盤災害の3つの事象を対象とし、災害リスク評価の方法を学ぶ。また、それぞれの事象による災害を防止あるいは低減するための対策工法とそのリスク評価での扱いを学ぶ。さらに、これら3事象の複合リスクを考慮し、リスクベースの防災・減災の原理を学ぶ。実際の地域を対象としたリスク評価と防災施設の配置計画を課題とし、グループで議論しながら計画を立案する。</p>	共同
	危機管理と事前復興・事業継続計画	<p>(概要) 地域の存続と持続的な発展のために必要となる災害に強い国土づくり、災害による被害を軽減する防災まちづくり、復興の事前準備について学習する。また、民間企業や行政機関におけるBCP（事業継続計画）の策定および運用方法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(6 森脇 亮、75 新宮 圭一／2回) 第1回 事前復興のプロセスと計画づくり 第2回 事前復興まちづくり</p> <p>(6 森脇 亮、76 芝 大輔／2回) 第3回 防災・事前復興と人材育成 第5回 行政機関における防災・危機管理</p> <p>(6 森脇 亮／2回) 第4回 危機管理の理論と応用 第8回 地域課題と事前復興（ワークショップ）</p> <p>(52 木下 尚樹／2回) 第6回 危機管理と事業継続計画（BCP） 第7回 行政機関における事業継続計画</p>	オムニバス方式
	リスクコミュニケーション	<p>(概要) 対象のもつリスクに関連する情報をリスクに関係する人々（ステークホルダー）に対して可能な限り開示し、互いに共考することによって解決に導く方法を修得する。リスクが不確実性をもっていることを踏まえ、リスクの捉え方と不確実性の評価、リスク情報とリスクに対する人びとの認知について学ぶとともに、リスク対策の中でのリスクコミュニケーションの位置づけと考え方について理解を深める。</p>	
	災害と福祉法政策	<p>(概要) 国及び地方自治体における災害に対する福祉政策の考え方と具体的内容、運用の現状を学び、今後の福祉政策のあり方を展望する。人権保障および社会保障法の生成、その意義を確認したうえで、20世紀後半から国内外で起きる大規模自然災害後に、福祉法政策の展開について学ぶ。その上で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により明らかになった医療提供体制や、福祉政策の課題を考える。さらに、国連がかかげる「誰一人取り残さない社会」実現のために、国及び地方自治体実施する福祉法政策についての理論を学習する。</p>	
	災害医療と地域包括ケア	<p>(概要) トリアージからDMATやJMAT、DPATなど災害時に活動する団体まで、災害医療の基本を学び、さらに新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって求められる災害医療の変化を考え、この時代に起こる災害から地域を守るために備えるべきものを学習する。さらに、超高齢者社会の我が国において、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援、さらに安全・安心の生活の持続的な維持を目的に、住み慣れた地域で、人生の最期まで続けることができることを目指す地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）を統合的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(4 佐藤 格夫／4回) 第1回 災害医療の基礎知識 第2回 平時時における救急医療の現状と役割、課題 第3回 地域医療再生を担うドクターヘリ、広域搬送の役割と課題 第4回 災害時における救急医療の現状と役割、課題</p> <p>(5 陶山 啓子／2回) 第5回 地域包括ケアの概念と基礎知識 第6回 地域包括ケアのマネジメントと取り組みの実際</p> <p>(31 藤村 一美／2回) 第7回 地域における健康問題の課題発見と解決方法の検討 第8回 地域参加型予防システム開発</p>	オムニバス方式
	国際防災戦略と危機対応	<p>(概要) 地域社会の自然環境や災害リスク、社会制度、文化を踏まえた危機管理の戦略、世界各国における特徴的な防災政策と危機対応の制度、国際防災協力の枠組み、防災に関する国際的な教育や指針の状況について学ぶ。</p>	

特別 研究 科目	特別演習Ⅰ	<p>(概要) 主指導教員と福祉同教員の指導のもとに、地域レジリエンスに関わる研究課題の設定、研究テーマに関わる既往研究の検討・分析、適切な研究方法の選択、研究計画書の作成、研究計画に基づいたデータ収集・分析、研究論文の執筆・発表について修得するほか、研究に必要な理論、倫理的配慮について学ぶ。</p> <p>研究課題設定、研究テーマに関わる既往研究の検討・分析、研究計画概要の作成</p>	
	特別演習Ⅱ	<p>(概要) 主指導教員と福祉同教員の指導のもとに、地域レジリエンスに関わる研究課題の設定、研究テーマに関わる既往研究の検討・分析、適切な研究方法の選択、研究計画書の作成、研究計画に基づいたデータ収集・分析、研究論文の執筆・発表について修得するほか、研究に必要な理論、倫理的配慮について学ぶ。</p> <p>研究計画に基づいたデータ収集・分析、研究に必要な理論、倫理的配慮、中間発表、研究進捗状況の確認と助言・指導</p>	
	特別演習Ⅲ	<p>(概要) 主指導教員と福祉同教員の指導のもとに、地域レジリエンスに関わる研究課題の設定、研究テーマに関わる既往研究の検討・分析、適切な研究方法の選択、研究計画書の作成、研究計画に基づいたデータ収集・分析、研究論文の執筆・発表について修得するほか、研究に必要な理論、倫理的配慮について学ぶ。</p> <p>学位論文作成計画の立案、研究論文の執筆・発表方法</p>	
	特別演習Ⅳ	<p>(概要) 主指導教員と福祉同教員の指導のもとに、地域レジリエンスに関わる研究課題の設定、研究テーマに関わる既往研究の検討・分析、適切な研究方法の選択、研究計画書の作成、研究計画に基づいたデータ収集・分析、研究論文の執筆・発表について修得するほか、研究に必要な理論、倫理的配慮について学ぶ。</p> <p>学位申請書提出、学位論文・学位論文要旨の作成、プレゼンテーション資料の作成</p>	

愛媛大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和4年度				令和5年度				変更の事由	
学部	入学定員	編入学定員	収容定員	学部	入学定員	編入学定員	収容定員		
愛媛大学				愛媛大学					
法文学部			3年次	法文学部			3年次		
人文社会科学科				人文社会科学科					
(昼間主コース)	275	10	1,520	(昼間主コース)	275	10	1,520		
(夜間主コース)	90	20		(夜間主コース)	90	20			
教育学部				教育学部					
学校教育教員養成課程	160	—	640	学校教育教員養成課程	160	—	640		
社会共創学部				社会共創学部					
産業マネジメント学科	70	—		産業マネジメント学科	70	—			
産業イノベーション学科	25	—	720	産業イノベーション学科	25	—	720		
環境デザイン学科	35	—		環境デザイン学科	35	—			
地域資源マネジメント学科	50	—		地域資源マネジメント学科	50	—			
理学部				理学部					
理学科	225	—	900	理学科	225	—	900		
医学部				医学部					
医学科	110	5	945	医学科	95	5			
看護学科	60	10		看護学科	60	10	930	定員変更(Δ15) 医学部医学科の定員15名の増加については、令和4年度までの措置。	
工学部				工学部					
工学科	500	10	2,020	工学科	500	10	2,020		
農学部				農学部					
食料生産学科	70	5		食料生産学科	70	5			
生命機能学科	45	2	700	生命機能学科	45	2	700		
生物環境学科	55	3		生物環境学科	55	3			
計	1,770	5	7,445	計	1,755	5	7,430		
			60				60		
愛媛大学大学院				愛媛大学大学院					
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科					
法文学専攻(M)	12	—	24	法文学専攻(M)	12	—	24		
				(うち、法文学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	—	(2)	※2	
産業システム創成専攻(M)	8	—	16	産業システム創成専攻(M)	8	—	16		
				(うち、産業システム創成専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	—	(2)	※2	
教育学研究科				教育学研究科					
教育実践高度化専攻(P)	40	—	80	教育実践高度化専攻(P)	40	—	80		
心理発達臨床専攻(M)	10	—	20	心理発達臨床専攻(M)	10	—	20		
医学系研究科				医学系研究科					
医学専攻(D)	30	—	120	医学専攻(D)	30	—	120		
看護学専攻(D)	2	—	6	看護学専攻(D)	2	—	6		
看護学専攻(M)	12	—	24	看護学専攻(M)	12	—	24		
(うち、看護学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(2)	—	(4)	(うち、看護学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(2)	—	(4)	※1	
理工学研究科				理工学研究科					
生産環境工学専攻(M)	62	—	124	生産環境工学専攻(M)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
物質生命工学専攻(M)	61	—	122	物質生命工学専攻(M)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
電子情報工学専攻(M)	59	—	118	電子情報工学専攻(M)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
数理物質科学専攻(M)	40	—	80	数理物質科学専攻(M)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
環境機能科学専攻(M)	28	—	56	環境機能科学専攻(M)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
				理工学専攻(M)	250	—	500	研究科の専攻の設置(事前相談)	
				(うち、理工学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(2)	—	(4)	※2	
生産環境工学専攻(D)	6	—	18	生産環境工学専攻(D)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
物質生命工学専攻(D)	5	—	15	物質生命工学専攻(D)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
電子情報工学専攻(D)	4	—	12	電子情報工学専攻(D)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
数理物質科学専攻(D)	4	—	12	数理物質科学専攻(D)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
環境機能科学専攻(D)	4	—	12	環境機能科学専攻(D)	0	—	0	令和5年4月学生募集停止	
				理工学専攻(D)	23	—	69	研究科の専攻の設置(事前相談)	
農学研究科				農学研究科					
食料生産学専攻(M)	26	—	52	食料生産学専攻(M)	26	—	52		
(うち、食料生産学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	—	(2)	(うち、食料生産学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	—	(2)	※1	
生命機能学専攻(M)	23	—	46	生命機能学専攻(M)	23	—	46		
生物環境学専攻(M)	23	—	46	生物環境学専攻(M)	23	—	46		
(うち、生物環境学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(2)	—	(4)	(うち、生物環境学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(2)	—	(4)	※1	
				(うち、生物環境学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	—	(2)	※2	
連合農学研究科				連合農学研究科					
生物資源生産学専攻(D)	9	—	27	生物資源生産学専攻(D)	9	—	27		
生物資源利用学専攻(D)	4	—	12	生物資源利用学専攻(D)	4	—	12		
生物環境保全学専攻(D)	4	—	12	生物環境保全学専攻(D)	4	—	12		
医農融合公衆衛生学環(M)	(5)	—	(10)	医農融合公衆衛生学環(M)	(5)	—	(10)	※1	
計	476	—	1,054	計	476	—	1,054		
※ 医農融合公衆衛生学環(M)の入学定員及び収容定員は、医学系研究科看護学専攻(M)、農学研究科食料生産学専攻(M)及び農学研究科生物環境学専攻(M)の内数とする。				※1 医農融合公衆衛生学環(M)の入学定員及び収容定員は、医学系研究科看護学専攻(M)、農学研究科食料生産学専攻(M)及び農学研究科生物環境学専攻(M)の内数とする。					
				※2 地域レジリエンス学環(M)の入学定員及び収容定員は、人文社会科学研究科法文学専攻(M)、人文社会科学研究科産業システム創成専攻(M)、理工学研究科理工学専攻(M)、農学研究科食料生産学専攻(M)、農学研究科生物環境学専攻(M)の内数とする。					